RX-75 GUNTANK

E.F.S.F. PROTOTYPE LONG-RANGE SUPPORT MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE RX-75 GUNTANK

MG MASTER GRADE

地球連邦軍
長距離支援型モビルスーツ
RX-75 ガンタンク
1/100スケール マスターグレードモデル

BANDAI

BANDAI 2009 MADE IN JAPAN

※写真の完成品は、塗装してあります。

0160242

地球連邦軍MS開発経緯

サイド3の独立宣言と連邦政府の対応

U.C.（宇宙世紀）0058年9月14日。サイド3は地球連邦からの独立を宣言し、ジオン共和国を樹立した。同時に連邦軍の駐留部隊を接収。ジオンの主張に対する賛同者や志願者を募って国防隊を発足させた。

U.C.0053年にジオン・ズム・ダイクンがサイド3の首相に選出されて以降、サイド3は根気よく自治権の拡大を要求して来た。当時すでにコロニーの経済規模は、地球単独のそれに数倍するものであったにも関わらず、その権限は極端に狭いものだったからだ。0058年のジオンの独立宣言に対して連邦政府は経済制裁で応え、治安維持の名目で宇宙軍を設立。対話もそこそこに示威行動に出た。0060年には宇宙軍の統制を含む「60年代軍備増強計画」を発動。ルナツーを軍事基地化する。対するジオン共和国は、扱う軍事予算の枠が国家規模にまで拡大してしまったためもあって、国防隊を国軍へと昇格させざるを得なくなる。0064年、連邦軍は、以後恒例化する観艦式を挙行。コロニー攻略の模擬訓練まで披瀝（ひれき）したと言われている。以後双方の対立はエスカレートし続け、0068年のジオンの死をもって転換点を迎える。次期首相に就任したデギン・ソド・ザビは、国内をまとめる必要もあってジオン支持の穏健派を粛正。0069年8月15日、ジオン公国宣言を発して公王に就任。ザビ家による独裁を確立する。そしてほぼ10年に及ぶ"戦争準備期間"を経て、0079年1月3日。ジオン独立戦争（一年戦争）が勃発する。

ミノフスキー粒子下における兵器と戦術の変化

U.C.0065年3月14日。ミノフスキー学会は、熱核融合炉内における特殊電磁波効果を発見。追試の結果は非公開とされ、極秘裏に軍事転用が図られることとなった。この素粒子こそが宇宙世紀に変革をもたらしたのだ。

0067年の共和国軍時代から、熱核ロケットエンジン、メガ粒子砲、ミノフスキー粒子散布技術などの開発は進展しており、この時期に行われたミノフスキー効果の公開確証実験は、連邦側の反応を探る目的もあったようだ。さらに、メガ粒子砲の完成に続き、0071年には、ミノフスキー粒子散布下における新兵器の開発に着手するとともに、小型融合炉を完成させている。その間にも、ヘリウム3採掘のための木星船団派遣や、月企業連合体と共同での小惑星基地アクシズ建設など、ジオン公国は着々と戦争準備を進めていた。そしてそれらは"戦争準備"ではなく、表向き連邦政府による経済制裁に対する"窮余の策"に見えることが重要であった。

T・Y・ミノフスキーによって発見されたミノフスキー粒子の特徴はいくつかあるが、最も重要なのは、それが散布された空間では、ある帯域の電磁波の伝播が著しく阻害されることである。つまり、電波を利用するレーダーなどの電索装備や、ミサイルなどの無線誘導を含む電装兵器のすべてが使用不能となってしまうばかりか、濃度によっては、電子回路の誤作動さえ惹起（じゃっき）するのだ。すなわち、敵味方ともに、中世さながらの有視界戦闘を強いられるということである。

一年戦争勃発の時点で、公国軍は、MSをはじめとする"ミノフスキー粒子散布下"における兵器システムと戦術を確立していた。一方の連邦軍は、保有する兵器のほとんどが最新鋭の電子戦兵装であったため、緒戦において手も足も出なかったのである。そしてそれは、地上においても同様であった。かつては"陸の王者"として無敵を誇った61式戦車をはじめとする連邦軍の陸戦兵器は、高さ18mからの視界を持つザクに思う様、蹂躙（じゅうりん）されてしまったのである。



61式戦車

写真は「1:35 U.C. ハードグラフシリーズ No.6 地球連邦軍 61式戦車5型 "セモベンテ隊"」

地球連邦軍初のモビルスーツ RX-75 ガンタンク

U.C.0079年に発動した "V作戦" に基づいて、RTX-44は「ガンダム」「ガンキャノン」の仕様にあわせて「ガンタンク」としての設計変更を受け、長距離支援を主目的とする砲撃戦用試作MSとして開発されることとなった。

ガンタンクは、RTX-44をベースに開発されたMSである。RTX-44の実質的な開発は、61式戦車の後継機として"RX計画"以前から進行していた「次世代MBT開発プロジェクト」に端を発する。それが急遽対MS兵器として仕様変更されたのは、無論、公国軍のザクに対抗するためであった。基本仕様が"対MS戦にも対応可能な機体"に変更された厳密な時期は不明だが、RTX-44は連邦軍による最初期の試作MSとして4機ほどが完成したという。

ガンタンクは、そのRTX-44を"V作戦"におけるMSの動力系のテストベットとして改装し、熱核反応炉やコア・ブロック・システムを組み込んで再設計したものである。一方、ガンタンクのプロトタイプに改装されなかったRTX-44は、RTX-440への仕様変更を経て、オデッサで戦線を形成する独立混成第44旅団に3機が配備されたとも言われている。この機体は突撃形態に変形可能で、多彩な兵装から戦域一帯を駆逐できる程の破壊力を持っていたとされる。実際にRTX-440がRTX-44そのものであったかについては諸説あり、ガンタンク自体、相当数が量産されていたこともあって詳細は不明である。もともとRTX-44の"頭部"は"機体制御用"ユニットとは独立した"砲座"として設計されていたが、RTX-440は、頭部から機体制御や火器管制を含むすべての操作が可能となっていた。この改装は後のガンタンクと同じコンセプトであり、導入の時期と合わせ、連邦軍のMS開発に伴うデータ解析のありようを物語っている。

そもそも、地形によっては二足歩行よりも履帯による移動の方が有利な側面もあり、連邦軍、公国軍を問わず、陸戦においてはその有効性を喪失してはいなかったのである。



頭部コクピット



腹部コクピット



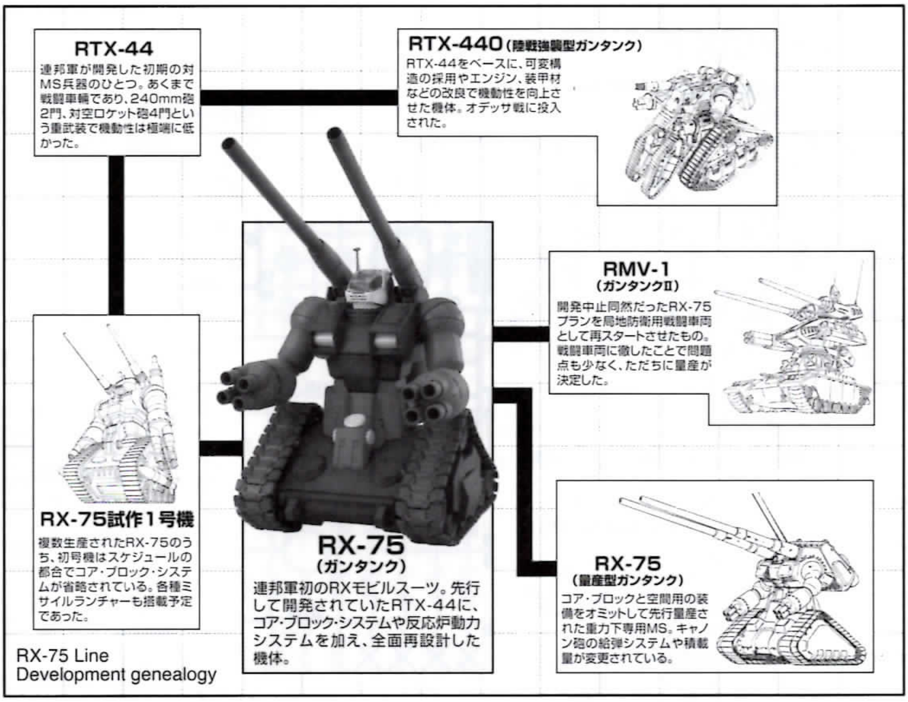
ガンタンク開発系譜と運用法

Development genealogy

ガンタンクには、対MS兵器としての後方支援や拠点攻撃用の移動砲台として以外にも、戦地での作業用機器としての側面もあった。後の量産型や系統の機体運用は、ガンダム、ガンキャノン系のそれとは一線を画している。

ガンタンクはRX計画およびV作戦に基づいて開発された機体ではあるが、その陸戦兵器さながらの風貌は一般的な"MS"の印象からはほど遠い。公国軍兵士からは「タンクもどき」や「MAの出来損ない」といわれることもしばしばであった。これは開発途上で計画が統合されたためでもあり、開発当初は首脳部のMSに対する知識が不充分であったせいだといわれている。ただし、巨大な二足歩行する人型の機動兵器など、技術的な有効性が充分に検証されたとは言えず、古くとも確実で実績のある技術で善後策を担保しておくというのは、ある意味で非常に現実的な技術論である。しかも"V作戦"は反抗作戦の要となる計画であるから、講じられる策はすべて講じるというのは理解できる話でもある。実際、ガンタンクが、MSというより陸戦兵器としての印象が強いのはそのためである。とはいえ、後発のガンキャノン、ガンダムというMSが完成したことにより、近接格闘、中距離支援、長距離支援の分担という独自のMS戦術や用兵が確立し、これは連邦軍の後のMS開発や戦略にも影響を与えることとなった。

量産型ガンタンクなどは、ガンタンクのコア・ブロック・システムをオミットして生産性を向上させた機体で、射程や装弾数など、原型機よりもさらに砲撃戦に特化した改良が施されている。さらに前線における改造を受け、ベルゲガンタンクと呼ばれる機体も存在した。これは、量産型ガンタンクの砲塔をクレーンなどと換装し、作業用とした機体である。「ベルゲ＝berge」は英語の「リカバリー＝recovery」に相当する独語で「回収」または「復旧」「修復」などの意味がある。旧世紀にも、砲塔を廃しクレーンなどと換装した同様の戦車や戦闘車輌があった。それに倣った改装だといえるだろう。また、MSとしてではなく、戦闘車両としてのガンタンクを再評価する動きもあり、ガンタンクⅡと呼ばれる機体は、各種の複雑な機構を排して再設計されたものであった。この機体は、U.C.0061年の制式配備以降、数々の改装を重ね、20年近く連邦軍地上部隊の主力として運用され続けていた61式戦車の後継機としても期待された。RX-75 ガンタンクは、MSサイズの機動兵器としては充分な戦果をあげており、また、MSが根本的に抱えていた「地上における行動範囲の狭さ」を解消した唯一の機体でもあった。速度や走破性はともかく、"走行"は"歩行"よりも長時間の稼働に優れていることはいうまでもない。MSの"移動"に関して「耐久」の項目があれば、ガンタンクの優位性はさらに際立っただろう。実際、"G-P.A.R.T.S.(Gパーツ)"プロジェクトによるG-MECHAに履帯が採用されていたり、ガンタンクⅡのような機体が開発されたのもそのためだと考えることができる。



RX-75 Line
Development genealogy

ガンタンク スペックと武装

Spec and armaments

ガンタンクの兵装は、基本的に信頼度や整備性を優先して採用されたものが多い。V作戦そのものがビーム兵器の開発を前提としている側面はあるものの、あらゆる要素が新機軸の兵器群など信頼性に乏しいことおびただしい。そう言った意味で、ガンタンクの存在自体が"対MS戦闘"に関してはナンセンスの誹(そし)りを免れないものの、地に足のついた真っ当な判断であったということもできる。とはいえ、この履帯自体、従来の戦闘車両から見れば非常識な程巨大であり、旧世紀のロケットの打ち上げ台やEM(アース・ムーバー)規模の建築土木機器の技術が流用されている。

<履帯>

この装備は、空間戦闘においてはほぼ完全なデッドウェイトとなるが、重力下であれば、ガンタンクを70km/hで疾駆させることが出来るのである。ガンタンクが履帯を採用してるのは、主に採用技術の信頼性によるものではあったが、逆に、MSによる戦闘が武力衝突における常態となることに疑問があったためだともいわれている。


履帯

<120mm低反動キャノン>

信頼性の高い既存の技術を盛り込んだ長射程の実体弾を高精度で射出するガンタンクの主武装。この武装は、ビーム・ライフルの開発が実戦に間に合わなかった場合の善後策として採用されたものだったが、ミノフスキー粒子によって誘導兵器が使用できない状況下に於いて威力を発揮した。

<40mm4連装ボップ・ミサイル・ランチャー>

近接戦闘時の対応策として、機関部を既存の別の兵器から移植した兵装。給弾機構も腕部に内蔵されているため、肘関節の可動範囲が狭く、実際のマニピュレーターとしては使用できない。ただし、ガンタンクは通常の"戦車"と違って砲塔部分に旋回機能がないため、側面や後方からの襲撃に対して、かなり有効であった。


120mm低反動キャノン砲


40mm4連装ボップ・ミサイル・ランチャー

⚠ 注　意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

《電池を誤使用すると発熱・破裂・液漏れの恐れがあります。下記に注意してください。》

- 万一、電池から漏れた液が目に入った時は、すぐに大量の水で洗い、医師に相談してください。ひふや服に付いた時は水で洗ってください。
- ＋－（プラスマイナス）を正しくセットしてください。
- 遊んだ後は必ずスイッチを切り、電池をはずしてください。
- ショートさせたり、充電、分解、加熱、火の中に入れたりしないでください。

※このキットの組み立てには＋(プラス)ドライバーを使いますので別にご用意ください。

〈組み立てる時の注意〉

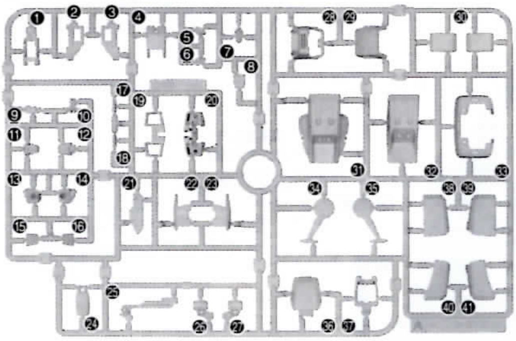
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

パーツリスト

（✕印は使用しないパーツです。）

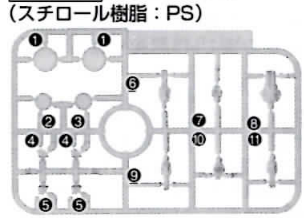
Aパーツ　アンダーゲート有り
（スチロール樹脂：PS）



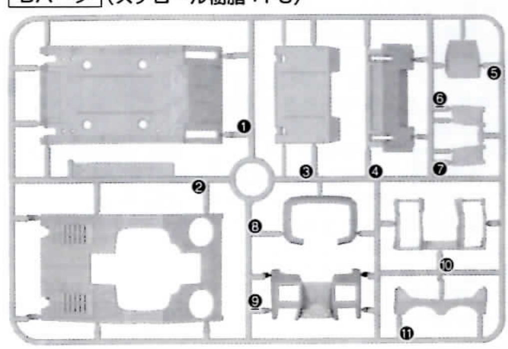
Bパーツ
（スチロール樹脂：PS）



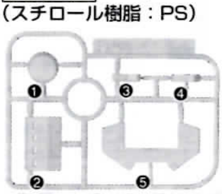
Cパーツ　アンダーゲート有り
（スチロール樹脂：PS）



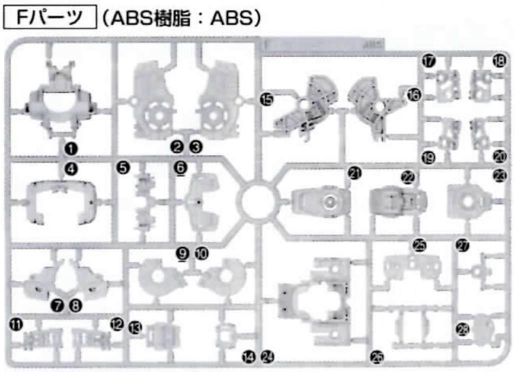
Dパーツ（スチロール樹脂：PS）



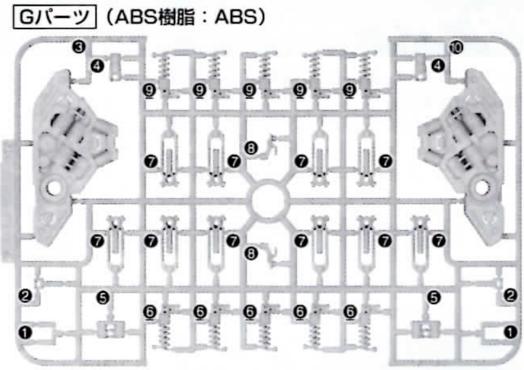
Eパーツ（×2）
（スチロール樹脂：PS）



Fパーツ（ABS樹脂：ABS）



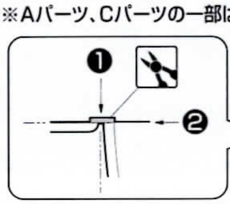
Gパーツ（ABS樹脂：ABS）



アンダーゲートの切り方

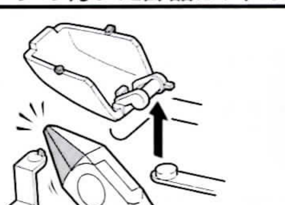
▶アンダーゲート マークの付いた部品は、下の図のようにキレイに切り取ります。

※Aパーツ、Cパーツの一部は下の図のように切り取ります。

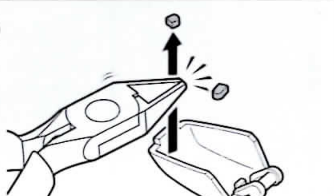




❶



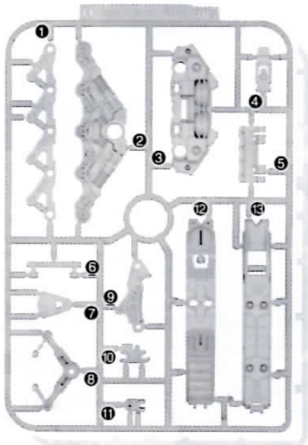
❷



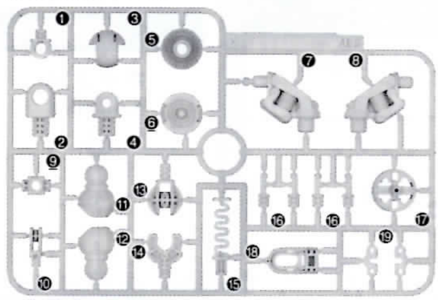
※組立図中の記号説明


切り取る部分

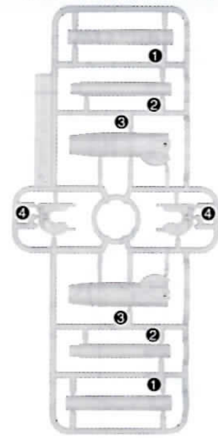
Hパーツ (×2)
(ABS樹脂：ABS)



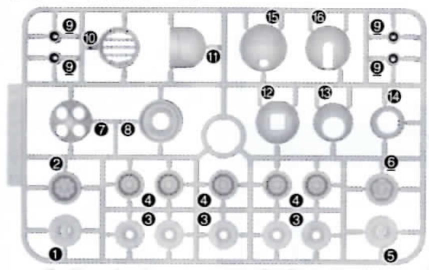
Iパーツ (×2)
(ABS樹脂：ABS)



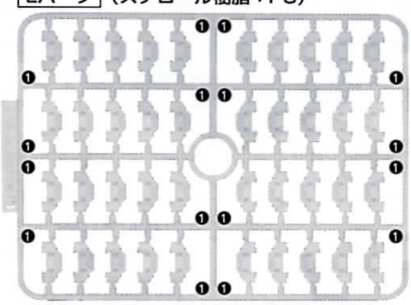
Jパーツ
(スチロール樹脂：PS)



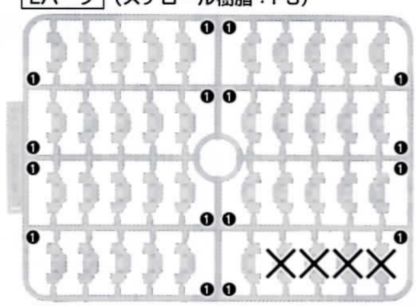
Kパーツ (×2)
(スチロール樹脂：PS)



Lパーツ (スチロール樹脂：PS)



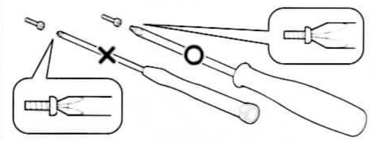
Lパーツ (スチロール樹脂：PS)



マーキングシール……………1枚
ガンダムデカール……………1枚

ビス……………………………1本
LEDライトユニット…………1個
(スチロール樹脂：PS)

※ビスに合ったドライバーをご使用ください。サイズの合わないドライバーを使用されますとビスを破損する場合があります。



今後の商品開発参考のために、下記HPにてアンケート実施中です。ご協力をおねがいいたします。なお、ご記入いただきました個人情報に関しては個人を特定しない統計処理に使用させていただきます。

携帯かパソコンからアクセスしてアンケートに答えよう!!

期間限定アンケート ▶http://hobbysite.jp

※参加用コード=R2057905
※予告なく終了します。

●本ホームページは、予告なく変更、および、終了する場合がございます。
●通信料などは、お客様の負担となります。

〈お買い上げのお客様へ〉部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書(**裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。**)にて下記までお申し込みください。なお、やむをえず部品注文カードをご使用できない場合には発送が遅れる場合がございます。ご了承ください。又、部品注文カードはコピー(拡大含む)での使用も可能です。代金は、料金表通りです。定額小為替は無記入(白紙)で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。また、在庫がない場合には注文をお断りする場合がございます。その際は、お送り頂きました代金(為替)を返送いたします。但し、それ以外に掛かった手数料等は、お客様負担になりますので、ご了承の程、何卒よろしくお願い致します。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。部品注文の方法は、HPでもご紹介しております。詳しくはhttp://bandai-hobby.netより▶お客様へ▶相談センターのお知らせ▶「■部品が必要になったらこちらのページをご覧ください。」をご参照ください。

■申し込み先　(株)バンダイ静岡相談センター
〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12
TEL 054-208-7520

・電話受付時間 月〜金曜日
(祝日を除く) 10時〜16時
・電話番号はよく確かめてお間違いのないようにご注意ください。

《料金表》●部品代、送料は切り取った1個の料金です。

部品番号	取扱説明書	LEDセット(LEDライトユニット、F㉓、ビス、各1個のセット販売)	シール・デカールセット(セットでのみの販売)	その他
部品代	150円	700円	120円	各60円
郵送料	200円	120円	80円	120円

FOR USE IN JAPAN ONLY.

部品注文カード　0160242
1/100SCALE MGシリーズ
RX-75 ガンタンク

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む) (こわした・なくした)

・日中ご連絡可能な電話番号　・**年齢**
(　　-　　-　　)(　　才)

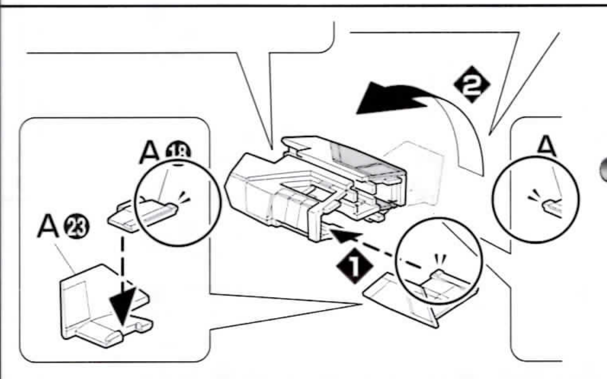
R2057905　'09.09

2009.09/T・ON　※コピー使用可

組み立て前の基本説明

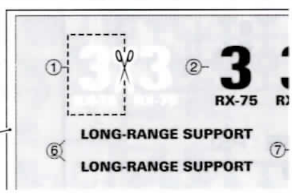
部品の向きに注意してください

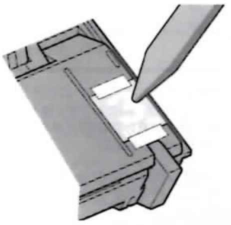
※組み立て図中に!!のついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



ガンダムデカールの貼りかた

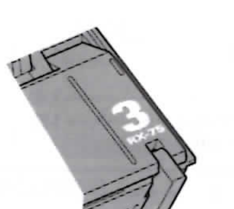
❶ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。





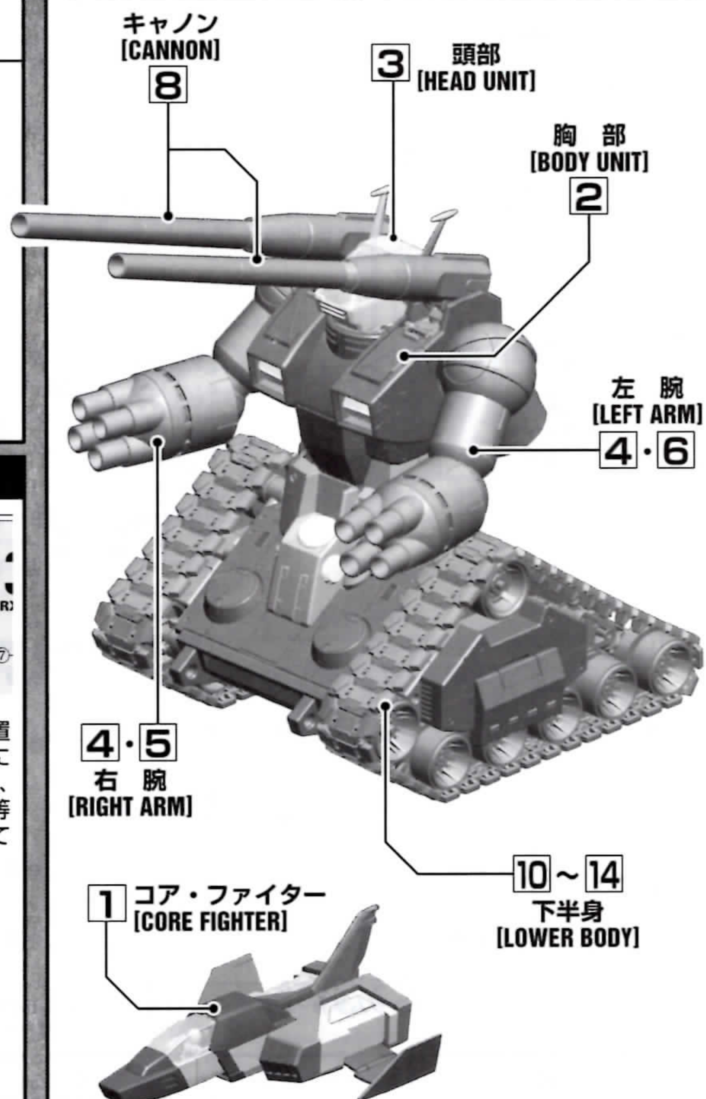
❷保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

❸シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。



※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう

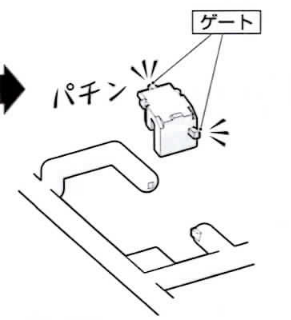


パーツの切り取りかた

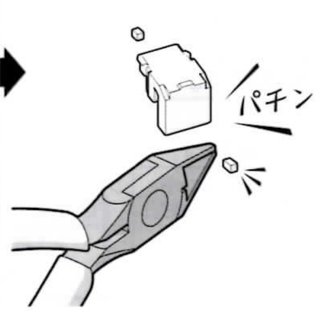
❶まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



❷パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。



❸ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。

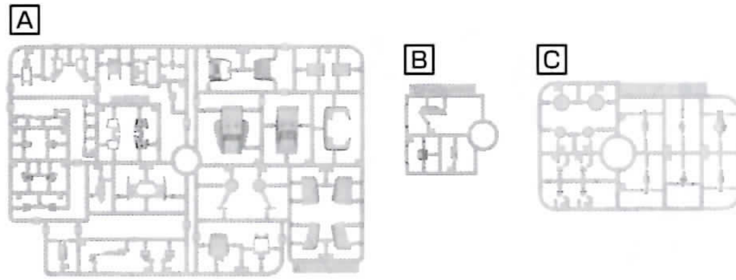




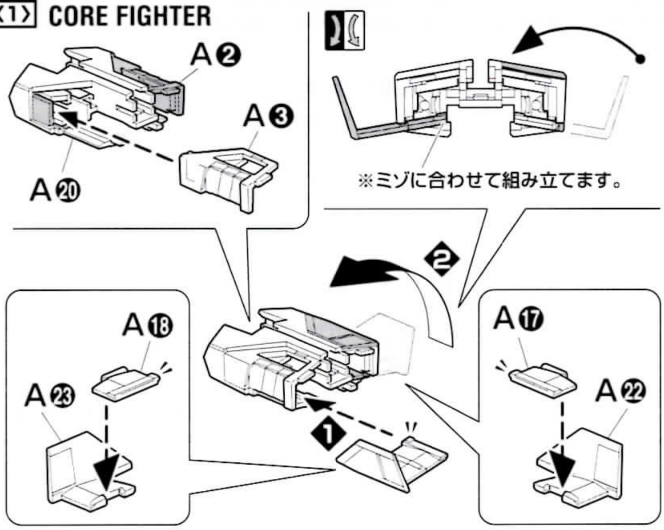
1 CORE FIGHTER



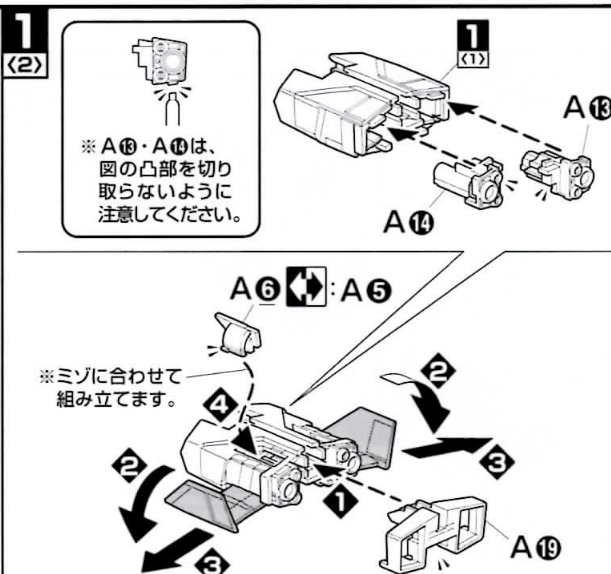
・組立1で使用するパーツ



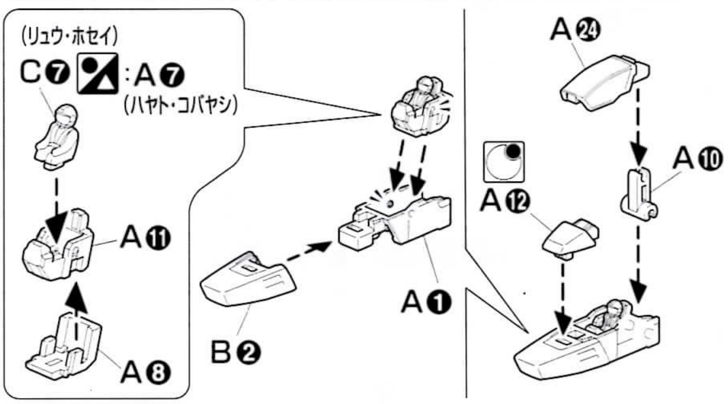
1〈1〉〔コア・ファイターの組立〕 CORE FIGHTER



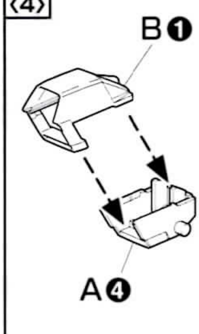
1〈2〉



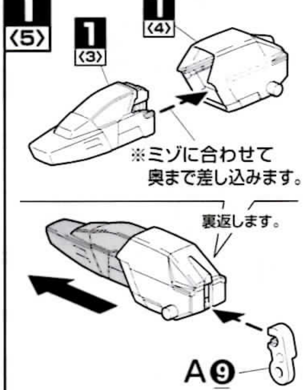
1〈3〉



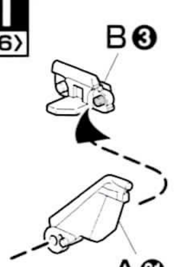
1〈4〉



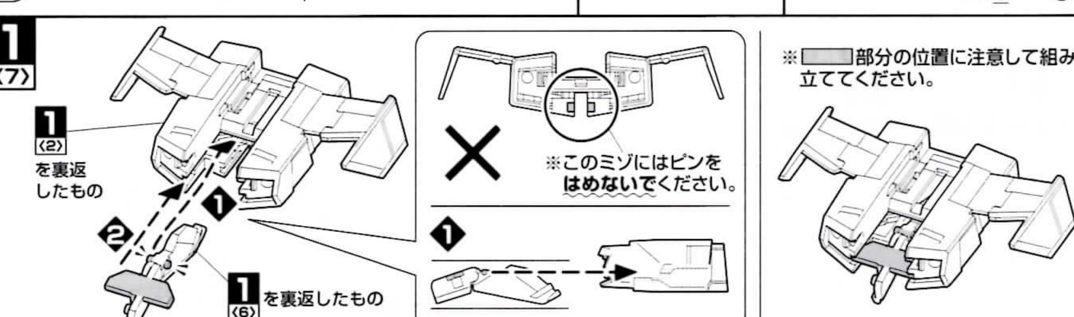
1〈5〉



1〈6〉

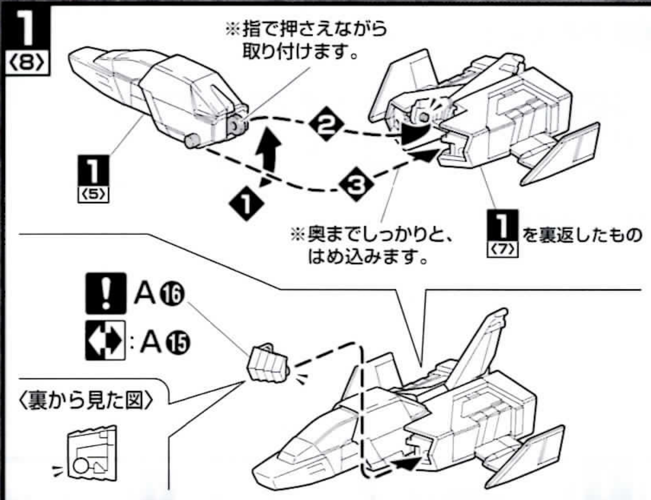


1〈7〉

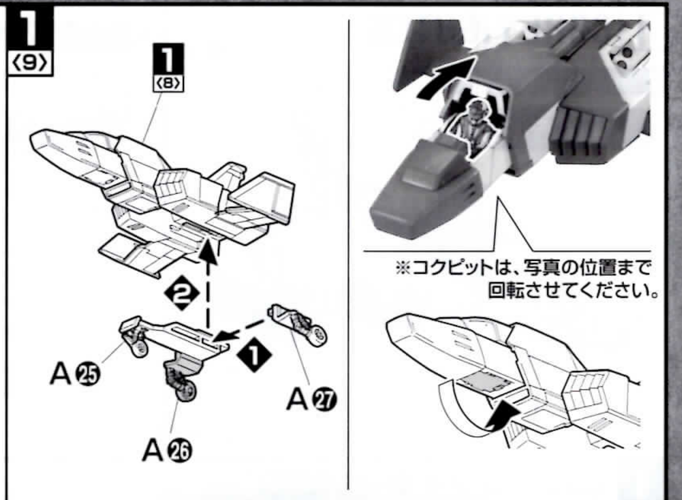


※組立図中の記号説明
- 反対側に取り付けるパーツ
- 先に組み立てる
- 両側を同じように動かす
- どちらかを選んで取りつける

1 ⟨8⟩



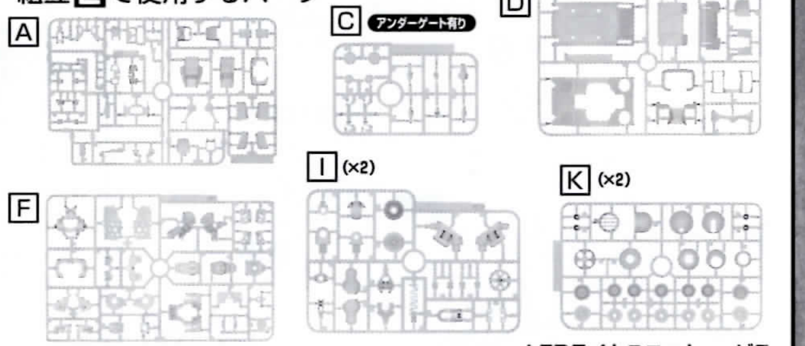
1 ⟨9⟩



2 BODY UNIT

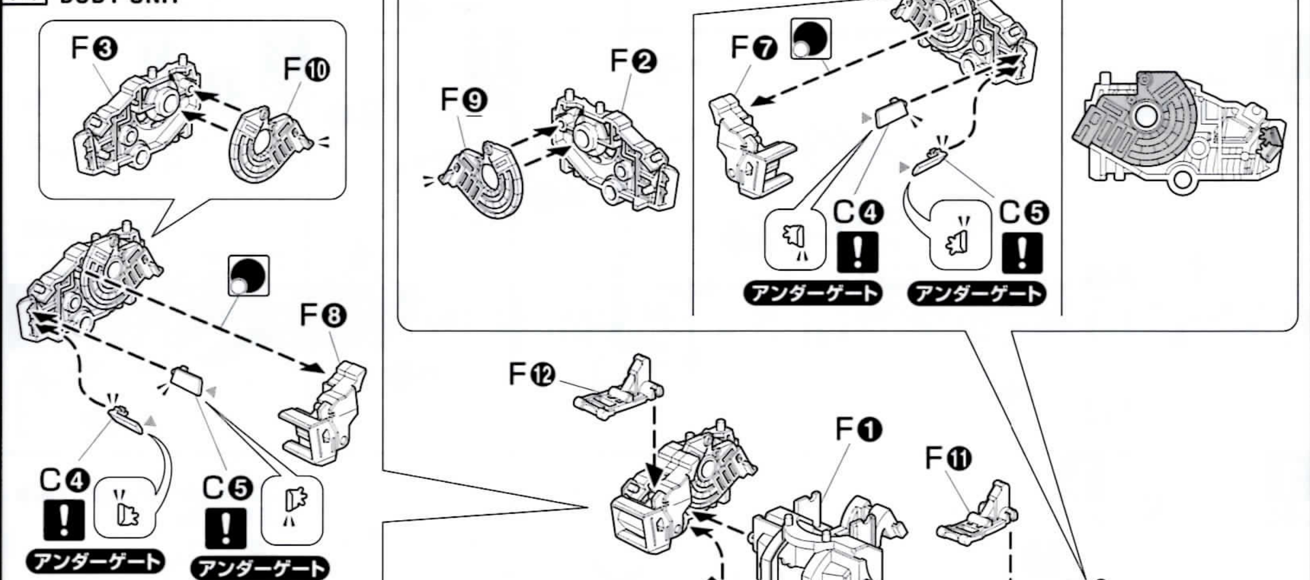


・組立 2 で使用するパーツ



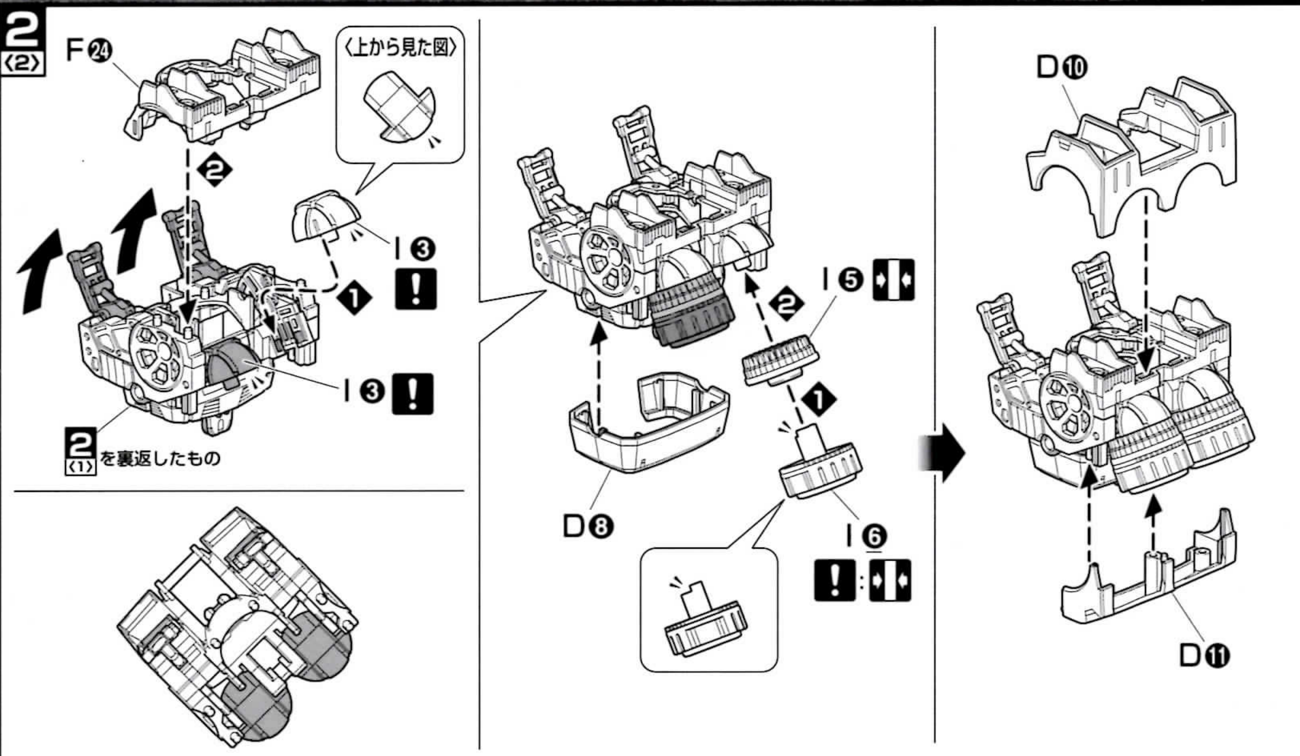
・LEDライトユニット ・ビス

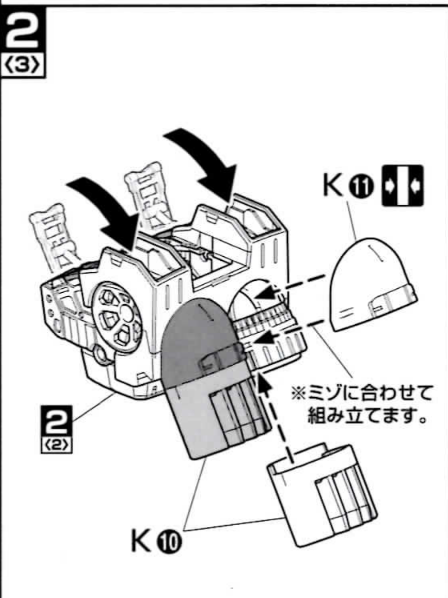
2 ⟨1⟩ 〔胸部の組立〕 BODY UNIT

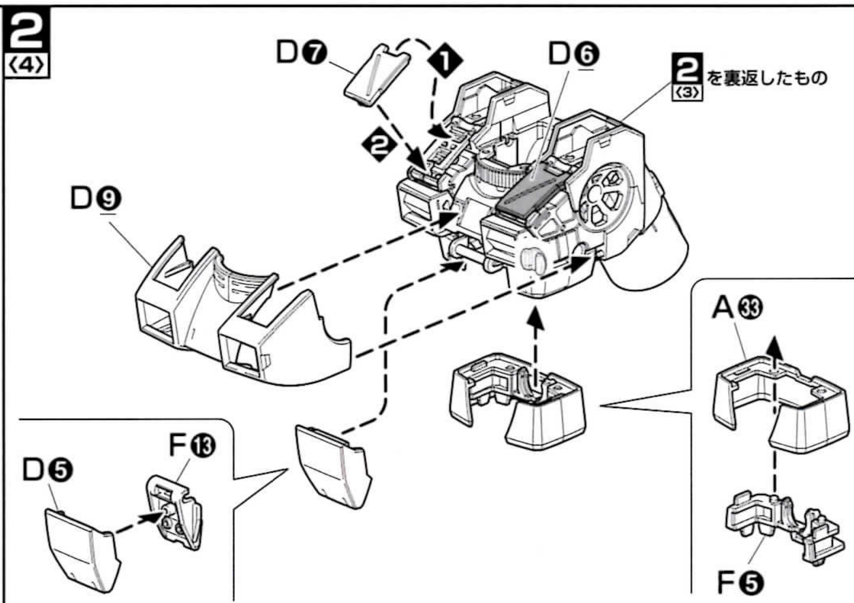


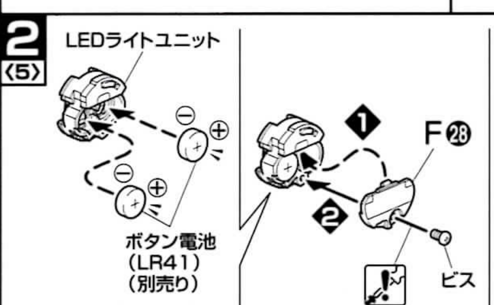
※組立図中の記号説明

●	後から組み立てる
!	向きに注意して組み立てる
◆	反対側に取り付けるパーツ





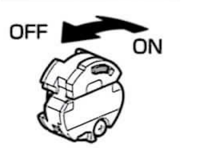




※LEDライトユニット
を点灯させる場合は、
ボタン電池(LR41
(2個)別売り)を
ご使用ください。

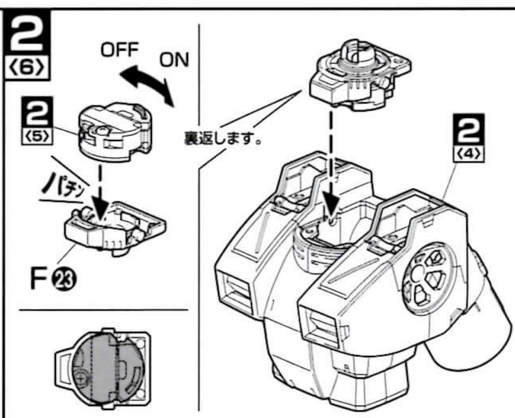
※点灯させない時は、
電池をはずします。

点灯テスト



点灯しない場合

1. 電池の+−(プラスマイナス)は合っていますか。
2. 電池は古くありませんか。
3. 電池ブタはしっかりと閉まっていますか。
4. ビスはしっかりと締まっていますか。



※組立図中の記号説明
- 向きに注意して組み立てる
- ビスの締めすぎに注意
- 両側に同じパーツを取りつける

MS Tracks in U.C.0079（一年戦争の軌跡）



敵の補給艦を叩け!

U.C.0079年9月19日。サイド7を脱出したWB（ホワイトベース）は、ルナツーへ向かう。その途上で、追撃するシャアのムサイに輸送艦パプワが接近しているのを察知した。「シャアのムサイに武器を補給させる前なら、私達にもアムロにも戦えるかもしれないわ」「攻撃に出ろというのか?」ミライの提案にたじろぐブライトだったが、主立ったクルーとの評決で攻撃を決定する。先行したアムロとリュウが、ガンダムとコア・ファイターで補給用コンベアパイプを狙い撃つ。その頃、WBのブリッジではハヤトがブライトにある提案をしていた。「戦車みたいなMS、ありますよね?」カイが大型特殊車輌の免許を持っていると聞いたハヤトが、ともに出撃したいと申し出る。「カイ・シデン、聞こえて? 3秒で発進。よろし?」「よろしくもよろしくないもないんだろ。いつでもいいよ。えーと、セ、セイラさんね」「余計なことは言わないで。WB接地、発進です」「急いでくださいカイさん。山を越えたらすぐに敵ですよ」「撃ってきたらどうするんだよ」「わかりません。あと10m……撃ちます!!」コンベアを失い、補給に手間取るパプワを射程に捕らえたガンタンクは、そのままパプワを撃沈する!!

ガルマ散る

U.C.0079年10月4日。太平洋目指し、北米大陸を西進するWBは、執拗なドップの偵察をやり過ごすため、とある市街地のドーム球場に身を潜める。アムロの提案で、ガンダムを囮に敵の編隊をWBの正面へおびきよせ、一気に殲滅することとなった。「ブライト、3機のザクが降りてくるわ。まっすぐこちらへ来るみたい」「よし、アムロ、聞こえるか? ザクが来る。ガンダムをWBの外に出せ」ミライの報告にブライトが応え、アムロに命令を下す。「了解」シャアのザクの攻撃をかわしつつ、アムロは作戦通り、ガウ攻撃空母をはじめとするガルマの編隊をWB正面へとおびき寄せた。「ブライト、敵の編隊機が行くわ」「よし、ミライ、位置に戻れ。砲撃を掛ける」「は、はい」「ガンタンク、ガンキャノン、WBの各砲座、銃撃手はおのおの照準合わせ。10秒後に一斉射撃……、撃てぇっ!!」WB部隊の持てる火力をすべて投じた大砲撃に、さしものガルマ隊も業火に包まれる。果たして、回頭した一機のガウがWBに特攻を試みるも、ガンタンク、ガンキャノン、そしてWBのメガ粒子砲の前に、あえなく撃墜されてしまうのだった……。



※写真はイメージです。

PAINTING〔塗装〕

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

ガンタンク 指定色

- 頭部などの塗装色 ホワイト（100%）+ライトブラウン（少量）
- 本体などの塗装色 ブルー（45%）+ホワイト（25%）+レッド（15%）+ブラック（15%）
- インテークなどの塗装色 イエロー（60%）+ホワイト（30%）+オレンジ（10%）
- 腰部などの塗装色 モンザレッド（100%）
- 腕部などの塗装色 ニュートラルグレー（70%）+ホワイト（20%）+カーキグリーン（5%）+ウッドブラウン（5%）
- 履帯などの塗装色 ニュートラルグレー（70%）+ブラック（15%）+ミディアムブルー（15%）
- コア・ファイター、ブルー部の塗装色 インディブルー（45%）+ホワイト（35%）+コバルトブルー（20%）

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。
※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

<軍服>

共通色
- 袖などの塗装色 モンザレッド（100%）
- ラインなどの塗装色 イエロー（45%）+ホワイト（35%）+オレンジ（20%）
- 足などの塗装色 ホワイト（100%）

ハヤト・コバヤシ/リュウ・ホセイ
- 軍服の塗装色 インディブルー（100%）
- ブーツの塗装色 ミドルストーン（100%）



ミライ・ヤシマ
- 軍服の塗装色 ピンク（90%）+モンザレッド（10%）
- ブーツの塗装色 ダークアース（90%）+マホガニー（10%）



ブライト・ノア
- 軍服の塗装色 ホワイト（90%）+ニュートラルグレー（10%）
- ブーツの塗装色 ミドルストーン（100%）



<ノーマルスーツ>

ハヤト・コバヤシ/リュウ・ホセイ
- イエロー部の塗装色 イエロー（70%）+ホワイト（30%）
- ラインの塗装色 すみれ色（60%）+ニュートラルグレー（40%）
- 襟などの塗装色 ブラック（100%）
- ヘルメット額部などの塗装色 ホワイト（100%）
- バイザー部の塗装色 スカイブルー（100%）
- シートベルト部の塗装色 グリーン（80%）+インディブルー（20%）



ワンポイントステップ ~One point step~

スミいれしてみよう!

ガンダムマーカー/スミいれ用（別売り）などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



〔before〕



〔after〕

RX-75 GUNTANK MECHANISM

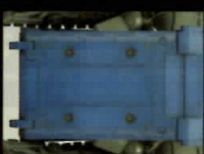
地球連邦軍が初めて開発したMSがRX-75 ガンタンクである。61式戦車の後継機であるRTX-44をベースとした本機は履帯を採用し、長距離支援機として運用された。



▲本体後部のアウトリガーはキャリアとして運搬作業用の機能も兼ね備えている。



▲履帯ユニットは走破性に優れ、移動時、射撃時には本体を水平に保つことが可能である。またショックアブソーバーにより射撃時の反動を軽減する役割も担っている。



◀本体下部には姿勢制御バーニアが設けられ、重力下では主にWBからの発着艦に用いられた。100m程度の対地高度での運用がなされた。

MODEL NUMBER : RX-75

Height : 15.6m
Weight : 56.0t
Generator output : 878kw
Armor materials : luna titanium alloy



《内部フレームイメージ》
※組立図通りに組立てた場合には、この写真の様にはなりません。



▲頭部コクピットは砲座とされ、有視界戦闘を考慮に入れた設計がなされている。後に、砲座での操縦が可能となった。



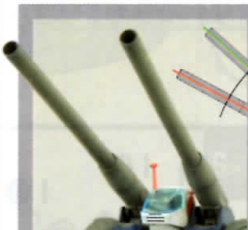
▲腹部はコア・ブロック・システムが内蔵され、本機の操縦を行う。このコア・ブロック・システムはRXシリーズ共通の規格とされ、教育型コンピュータが搭載されている。



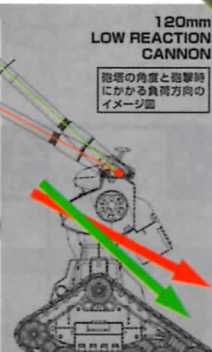
▶本体前部にはドーザー接続基部が設けられ、作業用としての側面が伺える。また、これを展開することにより、砲撃時のアンカーとしての役割も担っている。

Weapons

RX-75 GUNTANK Armament





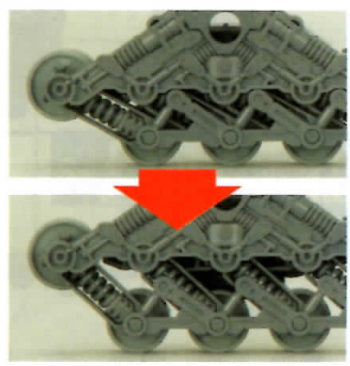


▲ダクト基部内部に砲弾装填ベルトを精密に再現。



▲両腕部には4連装ボップ・ミサイル・ランチャーを装備。





▲履帯ユニットのダンパーの角度は、120mm低反動キャノンの砲塔に合わせ切り替えが可能。砲撃時のショックを吸収する機構を再現。



◀砲塔を支持する装甲が展開。

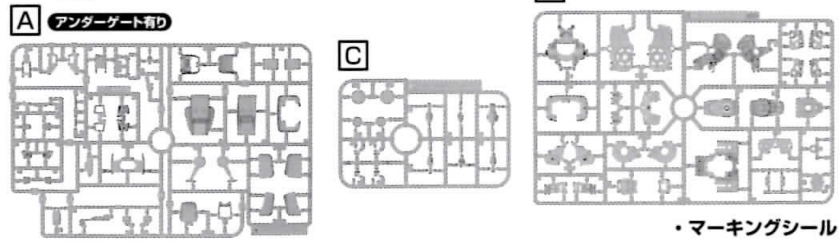


▶胸部ダクトは、上下に展開が可能。

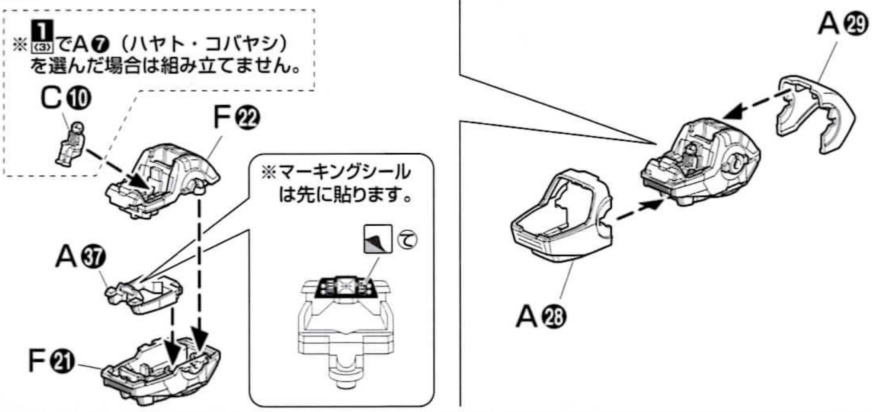
3 HEAD UNIT



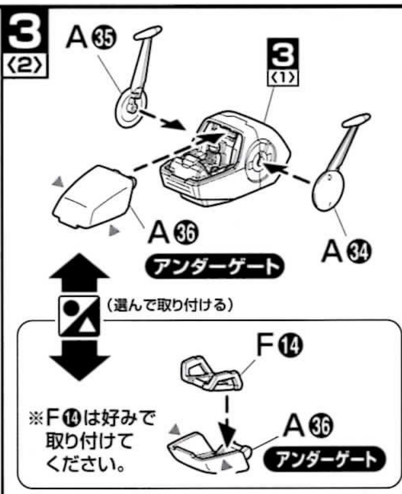
・組立3で使用するパーツ



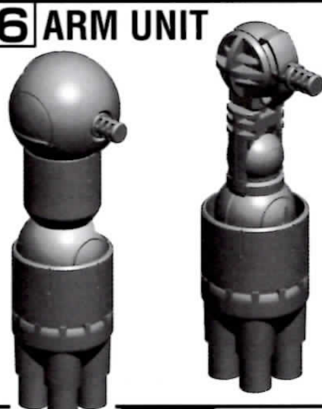
3〈1〉 〔頭部の組立〕 HEAD UNIT



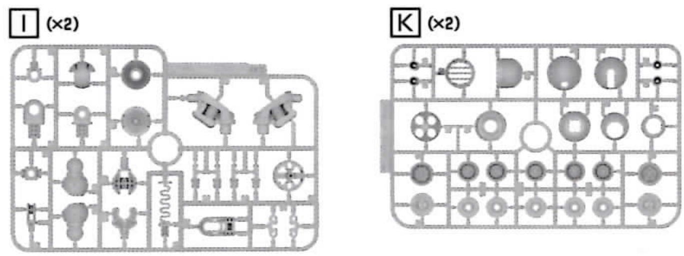
3〈2〉



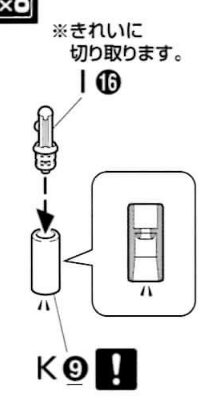
4 5 6 ARM UNIT



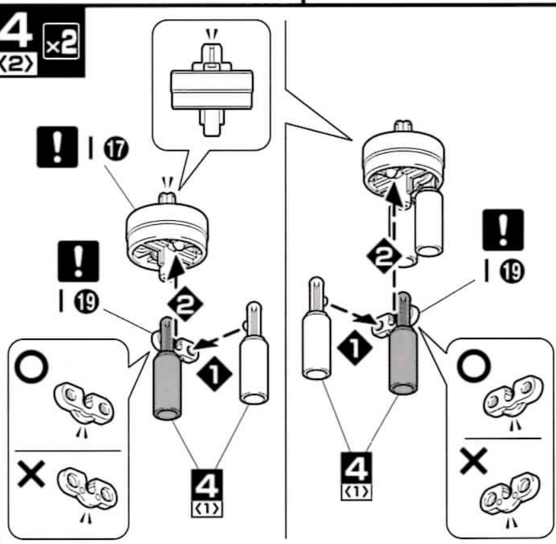
・組立4・5・6で使用するパーツ



4〈1〉 ×8 〔腕部の組立〕 ARM UNIT



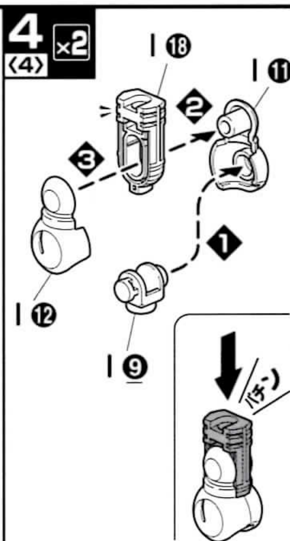
4〈2〉 ×2



4〈3〉 ×2

K8
4〈2〉
K7

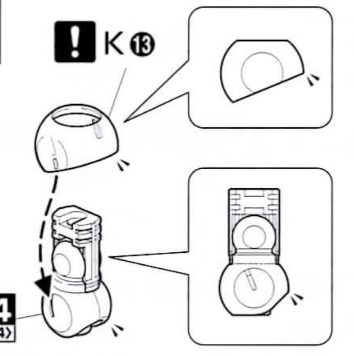
4〈4〉 ×2



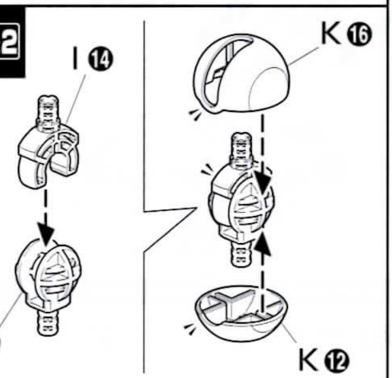
※組立図中の記号説明

どちらかを選んで取りつける	あ シールの番号	×2 部品を数値の個数作ります	! 向きに注意して組み立てる

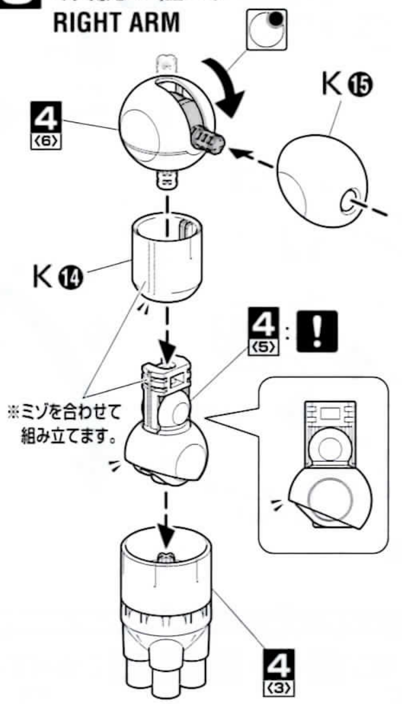
4 ×2 〈5〉



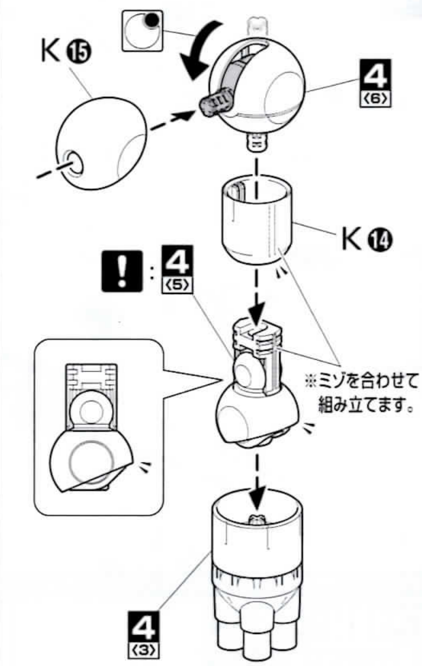
4 ×2 〈6〉



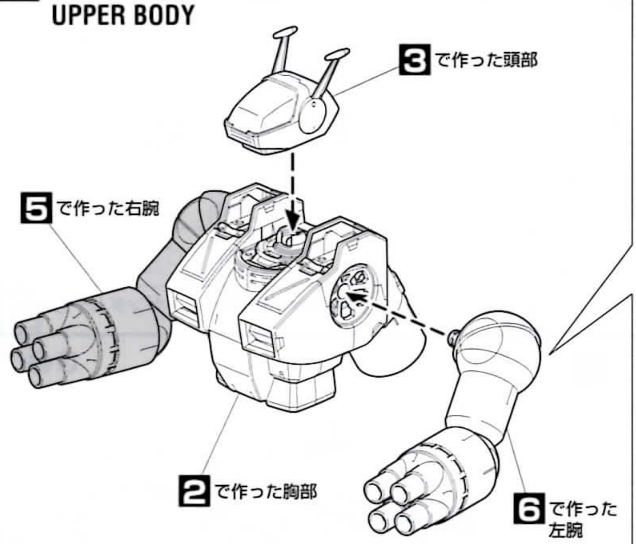
5 〔右腕の組立〕 RIGHT ARM

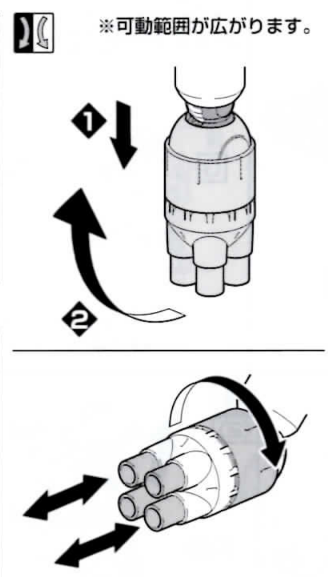


6 〔左腕の組立〕 LEFT ARM

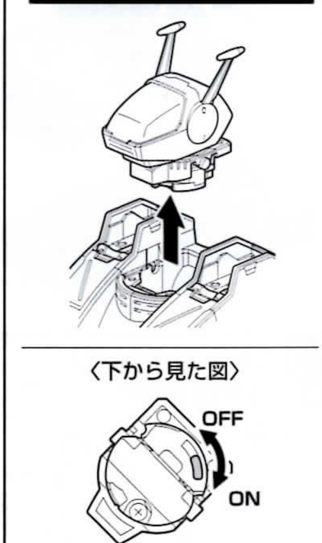


7 〔上半身の完成〕 UPPER BODY





LEDライトユニットを点灯させる場合

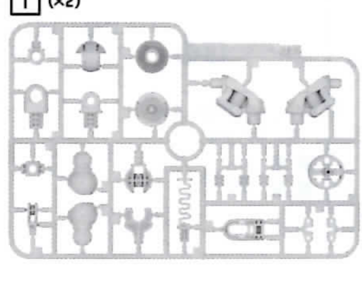


8 9 CANNON

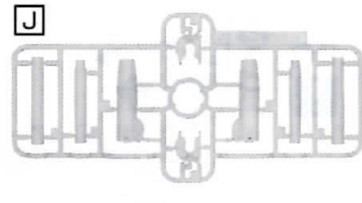


・組立 8・9 で使用するパーツ

I (×2)



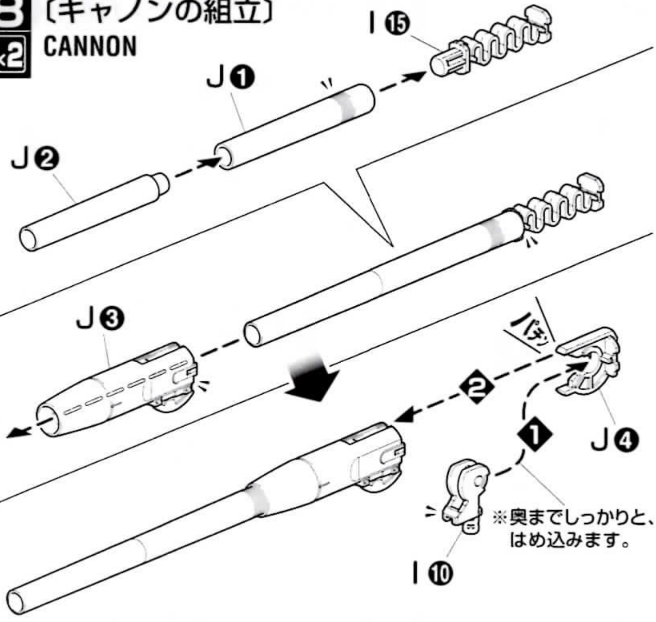
J



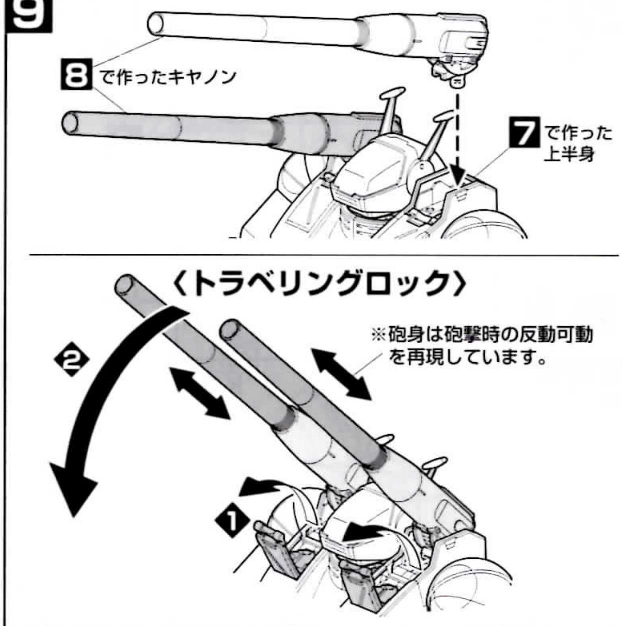
※組立図中の記号説明

×2	!	●	)(
部品を数値の個数作ります	向きに注意して組み立てる	先に組み立てる	両側を同じように動かす

8 〔キャノンの組立〕
×2
CANNON



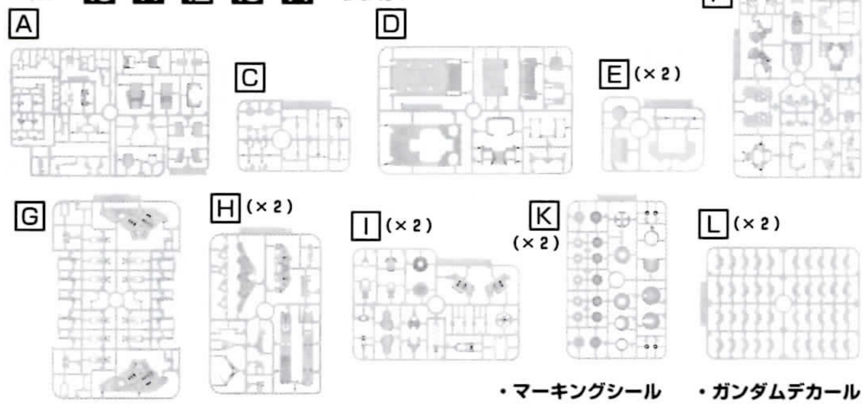
9



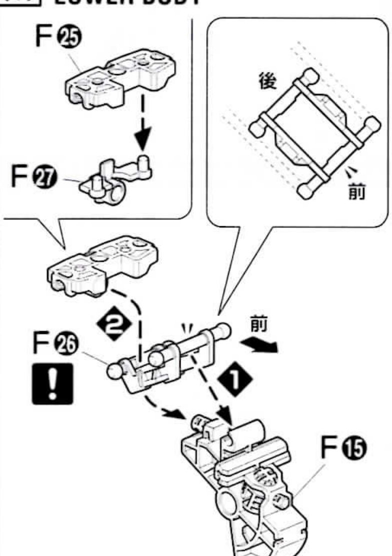
10 11 12 13 14
LOWER BODY



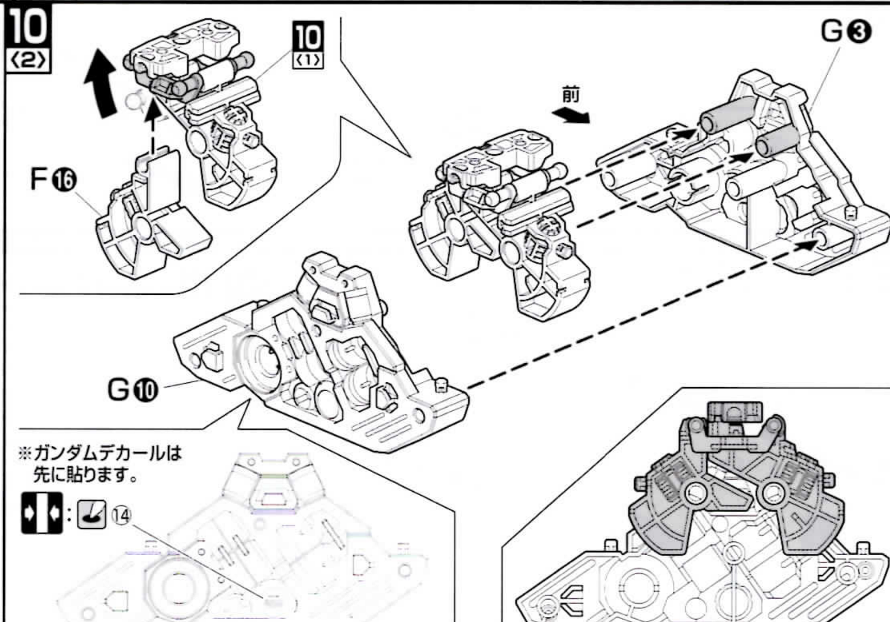
・組立10・11・12・13・14で使用するパーツ



10 〔下半身の組立〕
〈1〉 **LOWER BODY**

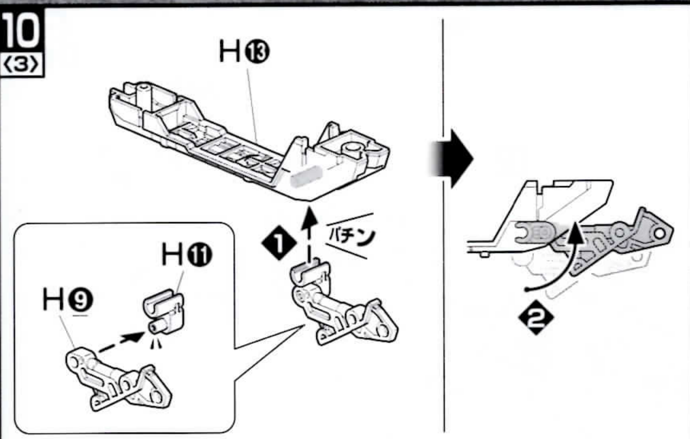


10 〈2〉

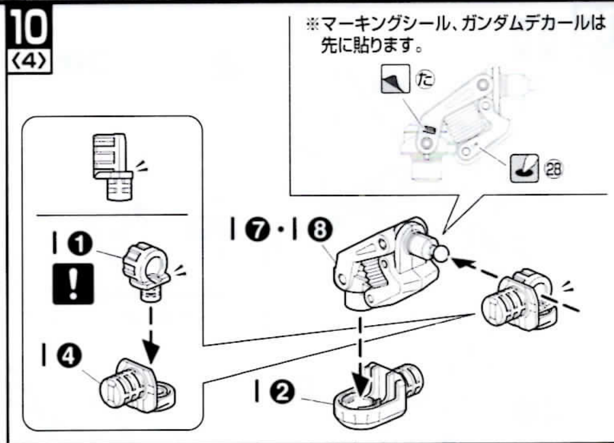


※組立図中の記号説明 ｜ 両側に同じパーツを取りつける ｜ 向きに注意して組み立てる ｜ ① デカールの番号 ｜ ×2 部品を数値の個数作ります

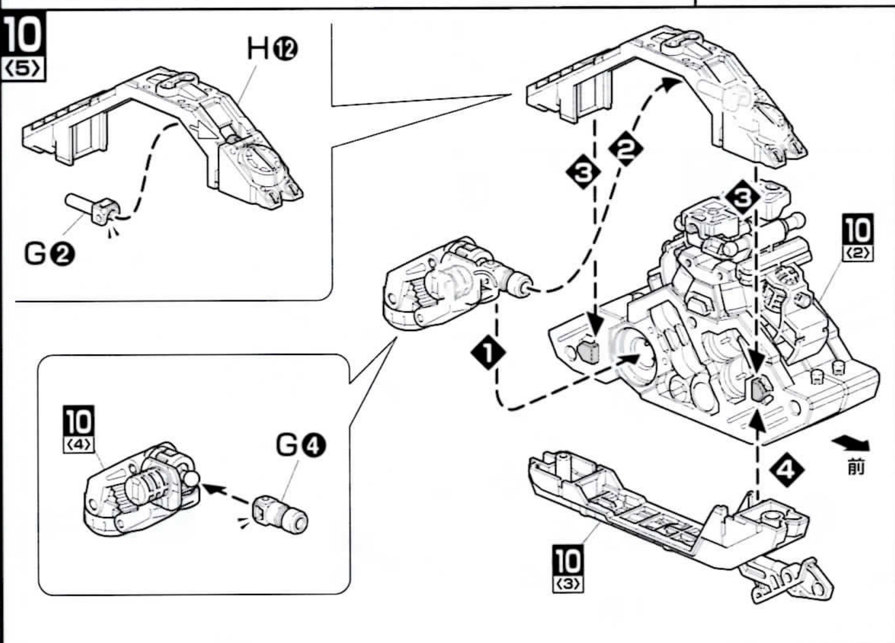
10〈3〉



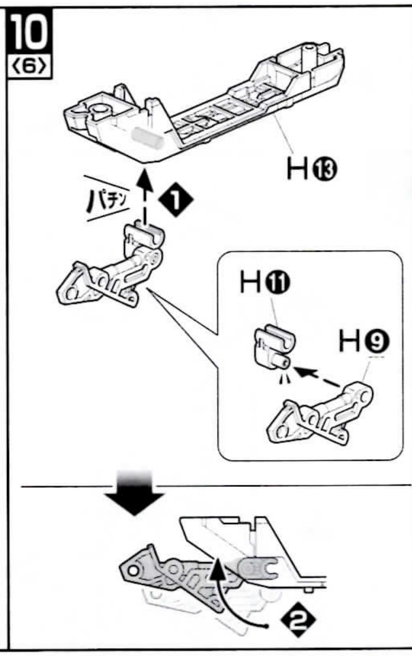
10〈4〉



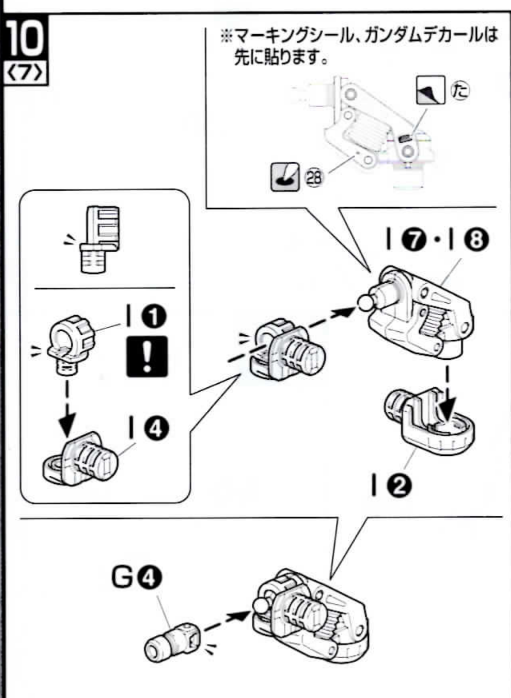
10〈5〉



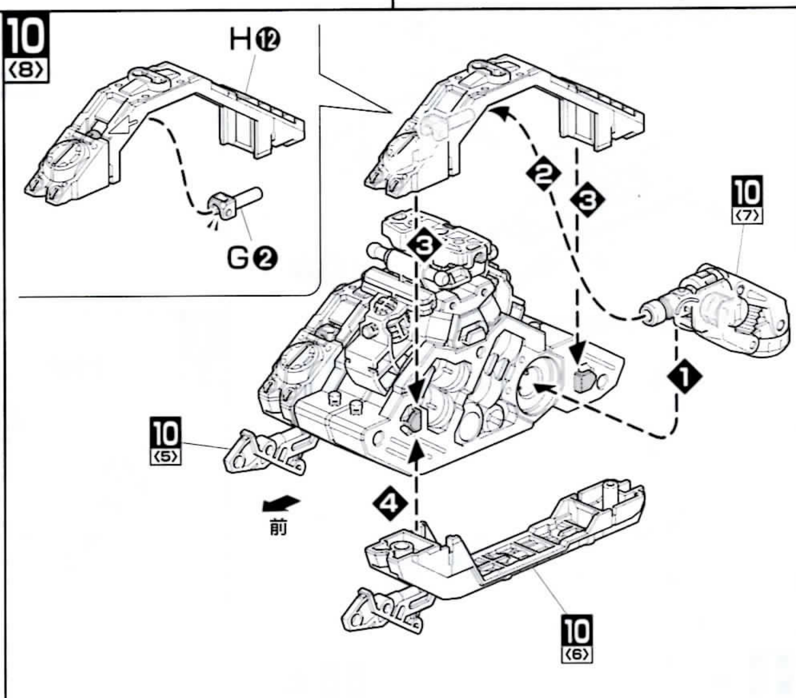
10〈6〉



10〈7〉



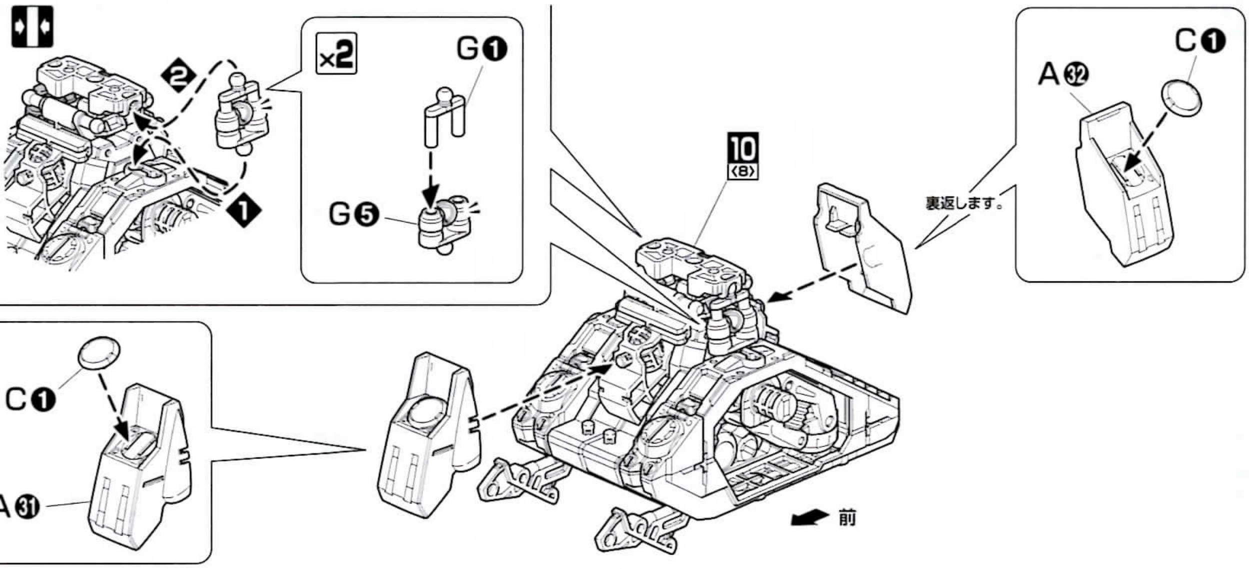
10〈8〉



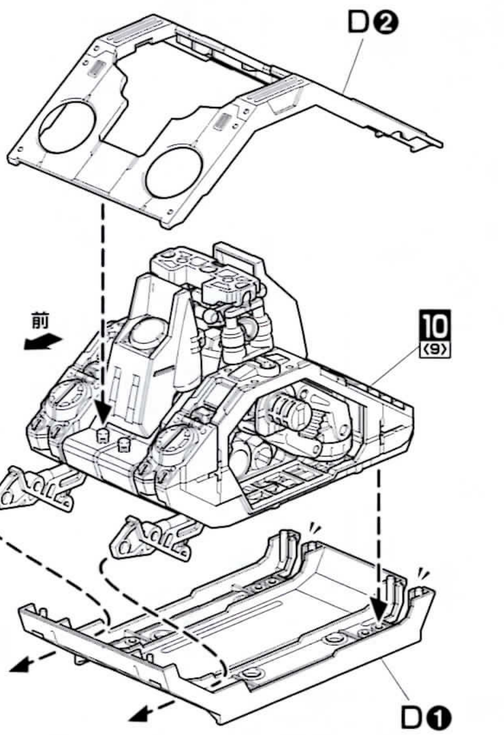
※組立図中の記号説明

! 向きに注意して組み立てる	あ シールの番号	① デカールの番号

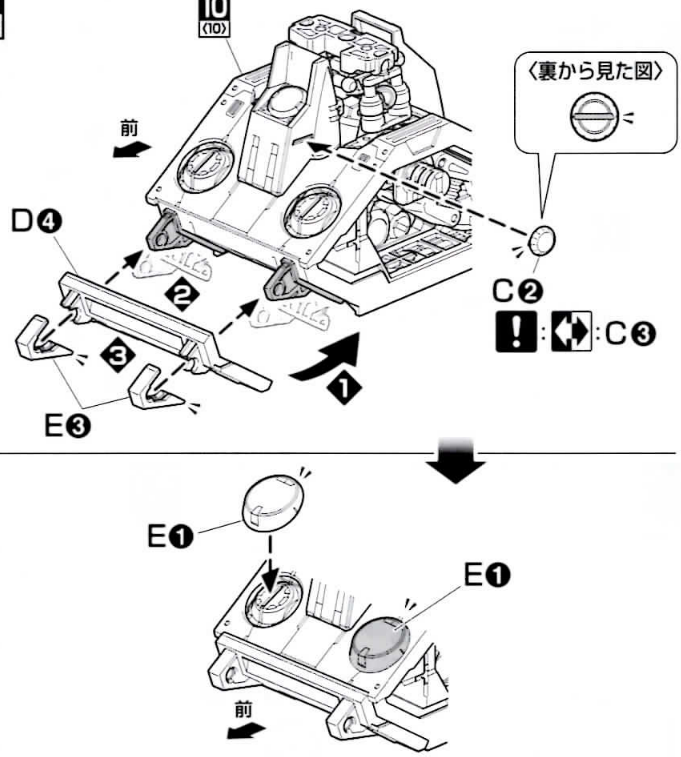
10 〈9〉



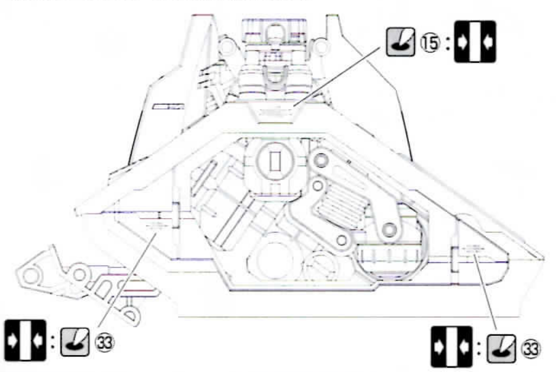
10 〈10〉



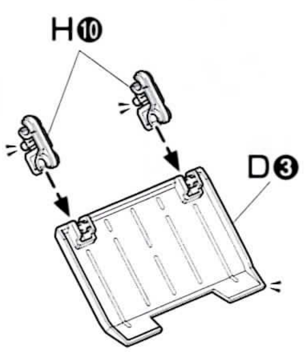
10 〈11〉



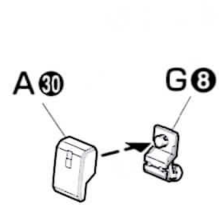
※ガンダムデカールは先に貼ります。



10 〈12〉



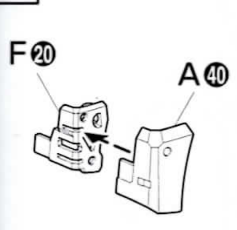
10 〈13〉 ×2



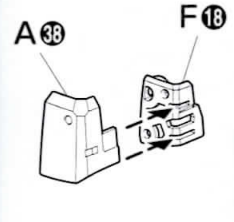
※組立図中の記号説明

- 両側に同じパーツを取りつける
- ×2 部品を数値の個数作ります
- 向きに注意して組み立てる
- 反対側に取り付けるパーツ
- ① デカールの番号

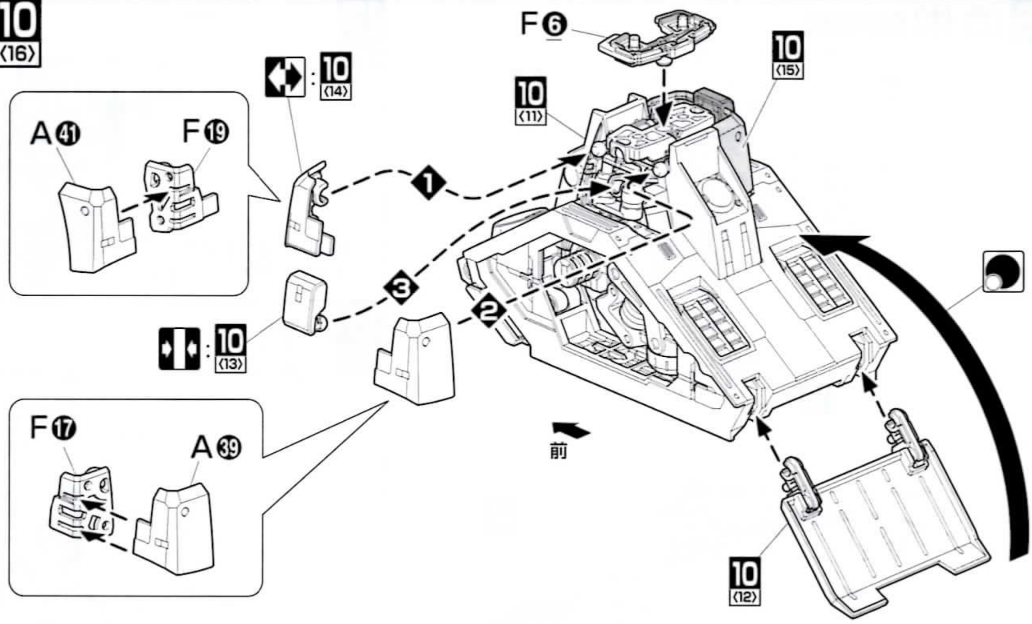
10 〈14〉



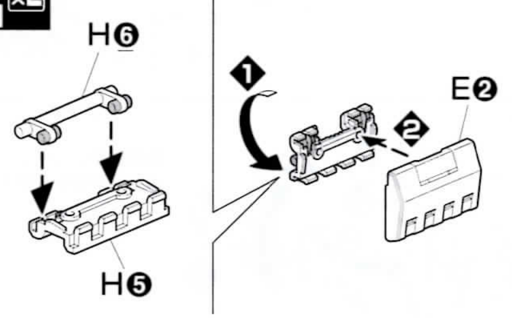
10 〈15〉



10 〈16〉

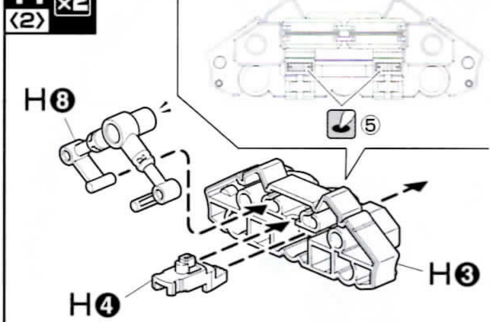


11 〈1〉 ×2

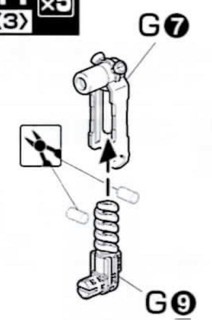


11 〈2〉 ×2

※ガンダムデカールは先に貼ります。

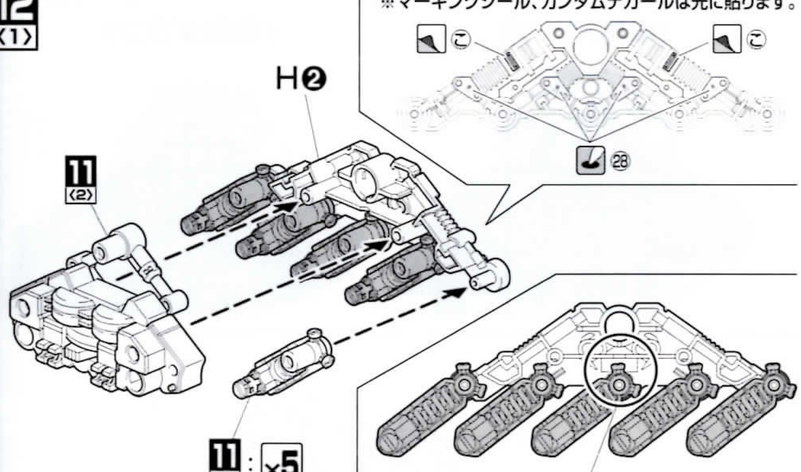


11 〈3〉 ×5



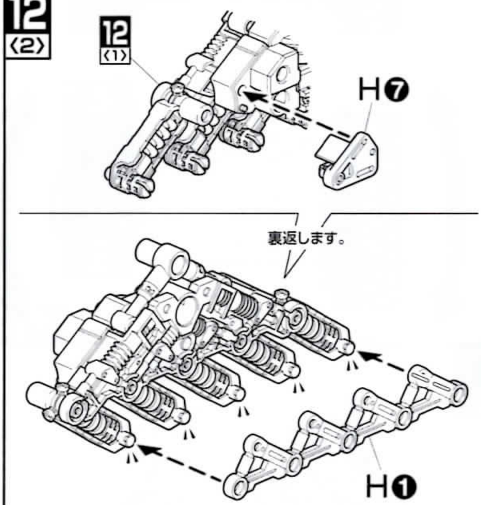
12 〈1〉

※マーキングシール、ガンダムデカールは先に貼ります。

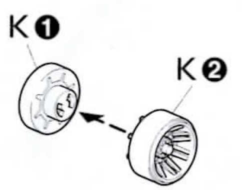


※図の位置に注意して組み立てます。

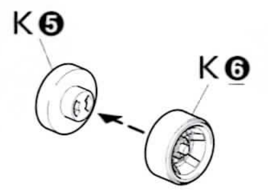
12 〈2〉



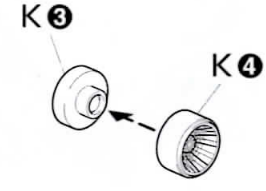
12 〈3〉 ×2



12 〈4〉 ×2

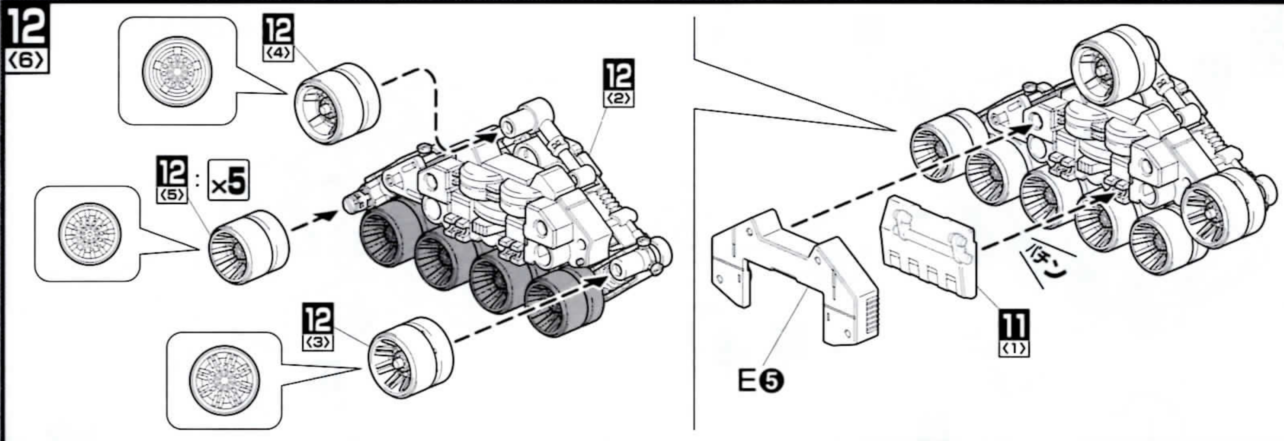


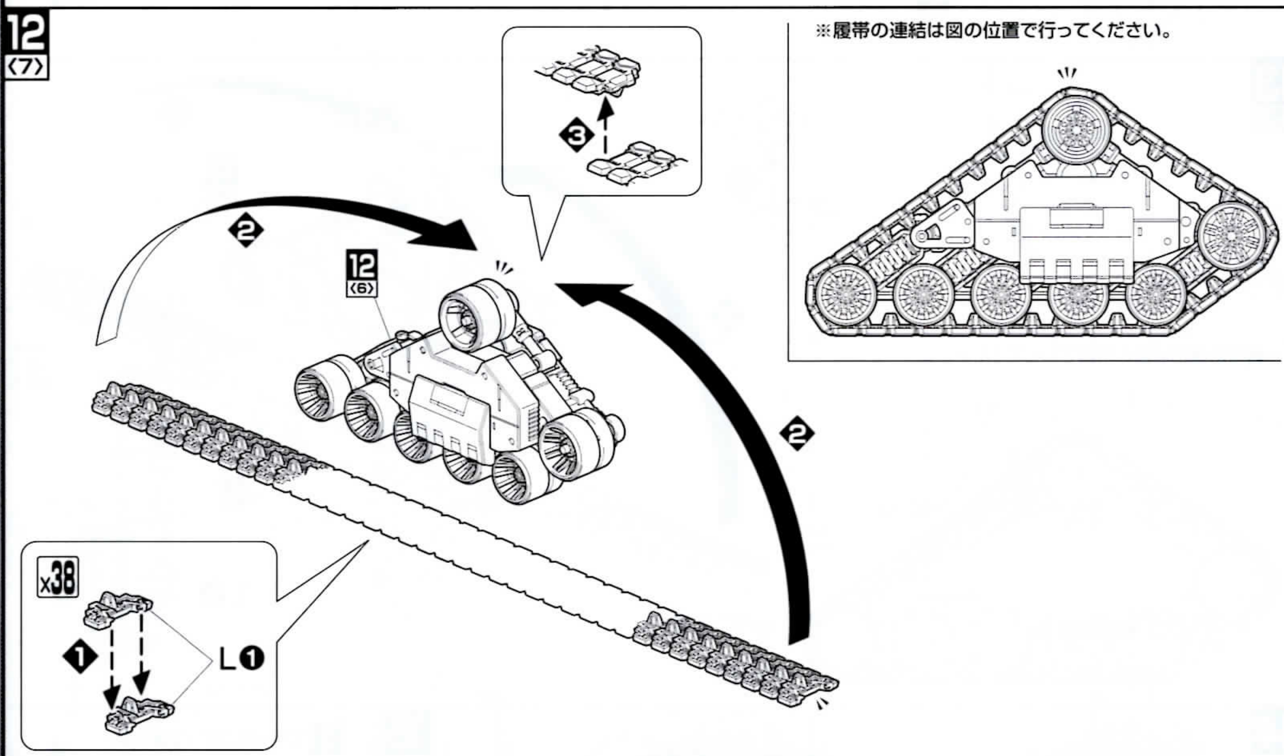
12 〈5〉 ×10

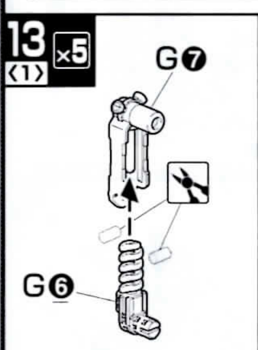


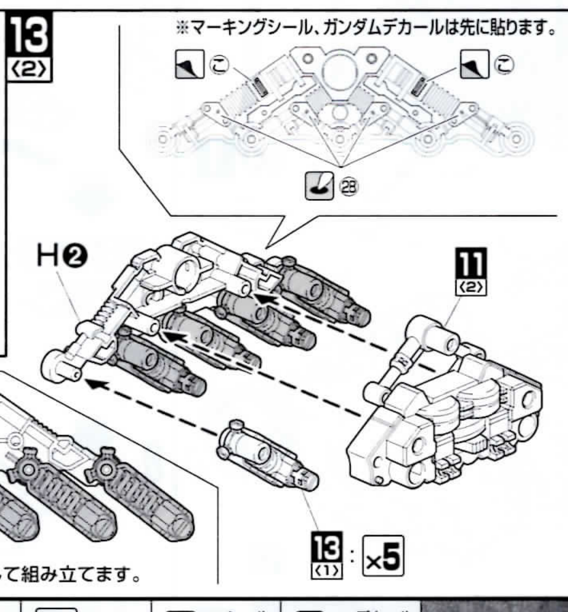
※組立図中の記号説明

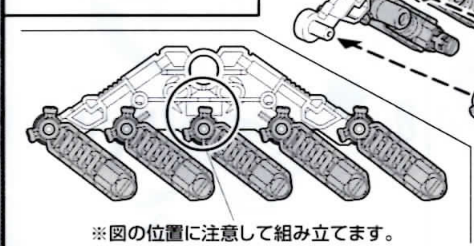
- 後から組み立てる
- ×2 部品を数値の個数作ります
- 両側に同じパーツを取りつける
- 反対側に取り付けるパーツ
- 切り取る部分
- あ シールの番号
- ① デカールの番号

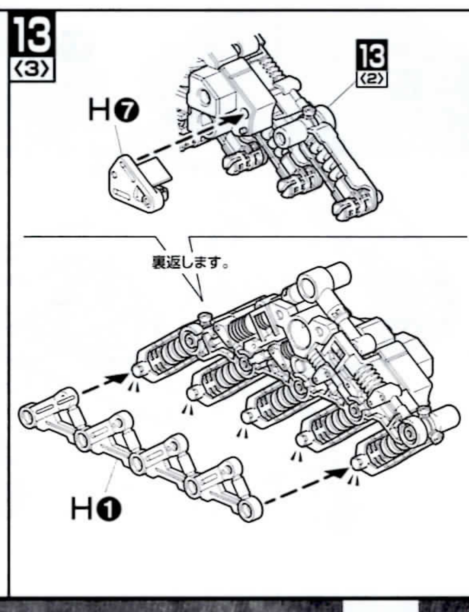






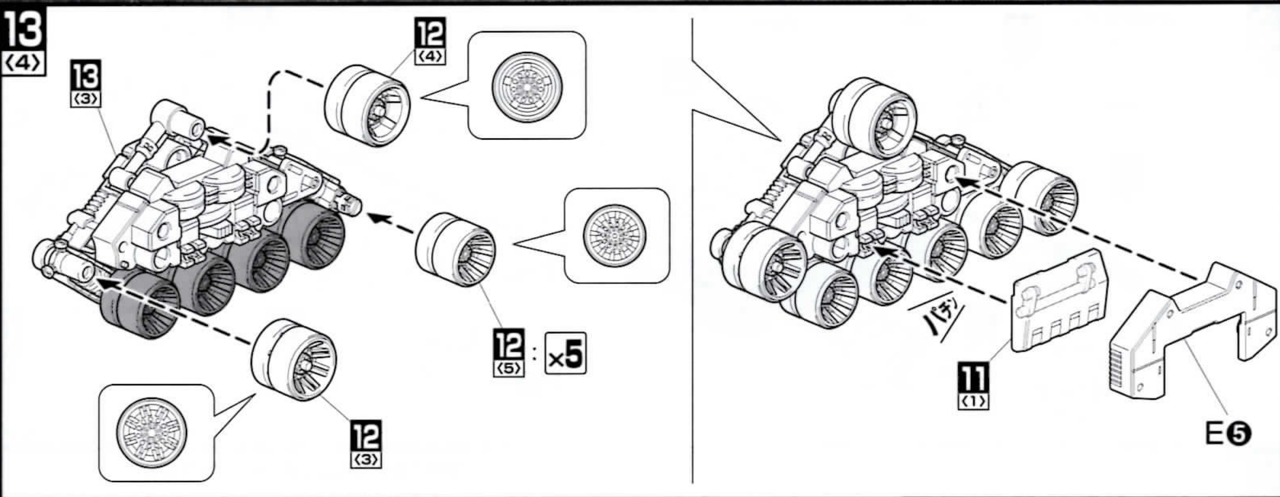




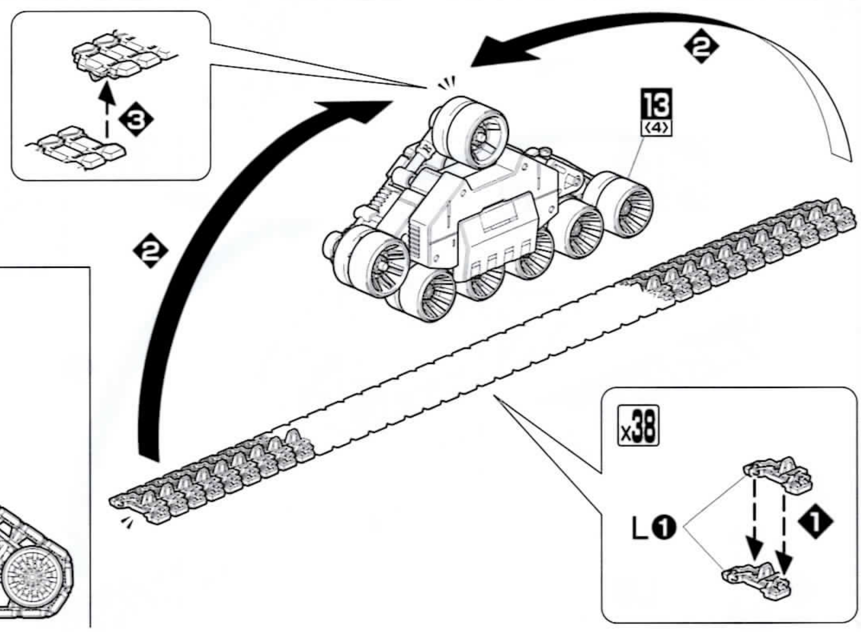


※組立図中の記号説明 ×2 部品を数値の個数作ります 切り取る部分 あ シールの番号 ① デカールの番号

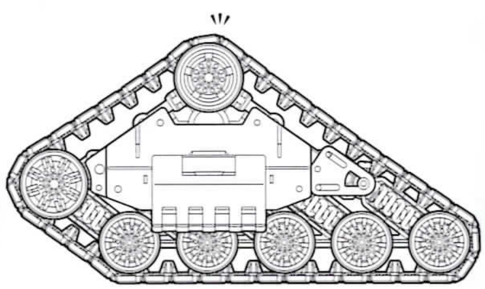
13 〈4〉



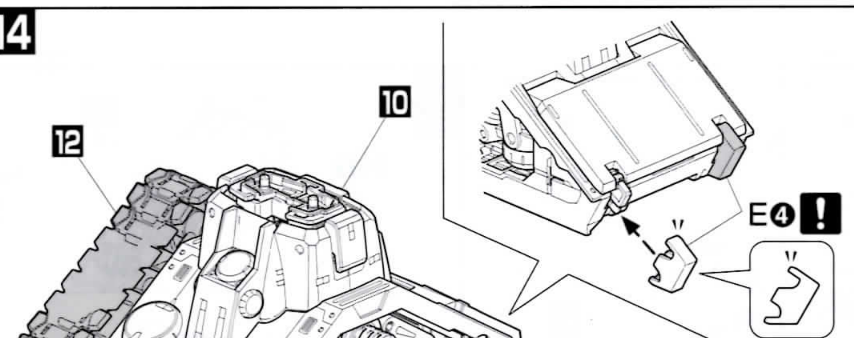
13 〈5〉



※履帯の連結は図の位置で行ってください。

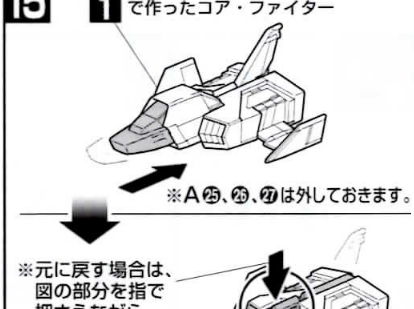


14



15

1 で作ったコア・ファイター



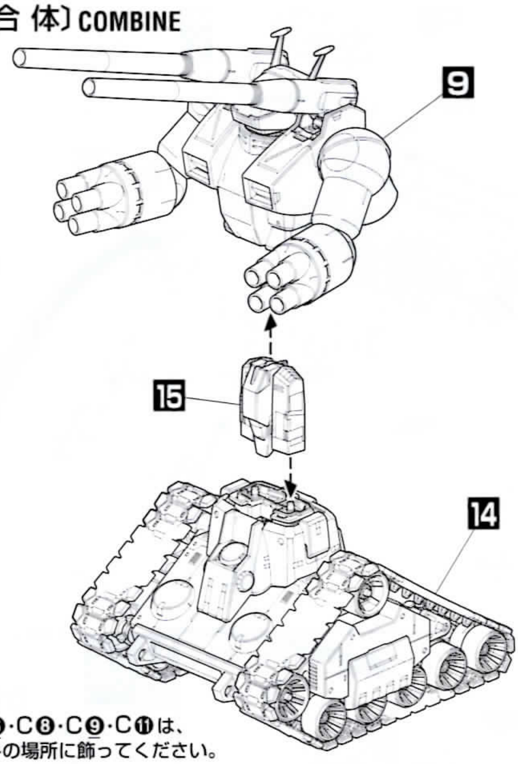
※A㉕、㉖、㉗は外しておきます。

※元に戻す場合は、図の部分を指で押さえながら注意して戻してください。

※組立図中の記号説明

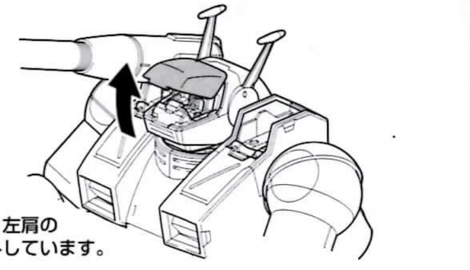
!	向きに注意して組み立てる
(両側)	両側を同じように動かす
×2	部品を数値の個数作ります

16 〔合 体〕COMBINE



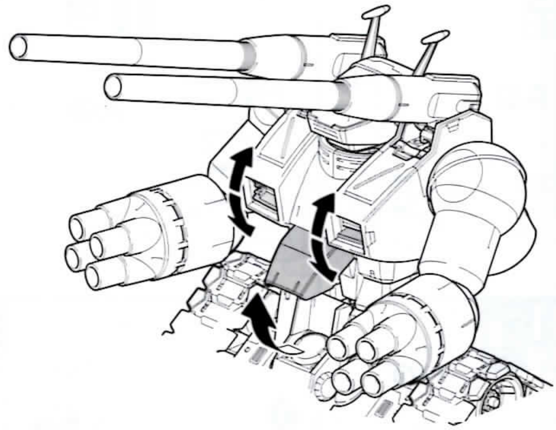
※C❻·C❽·C❾·C⓫は、
好みの場所に飾ってください。

17 〈1〉

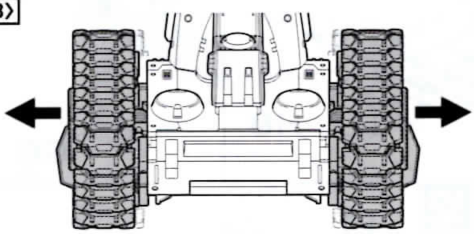


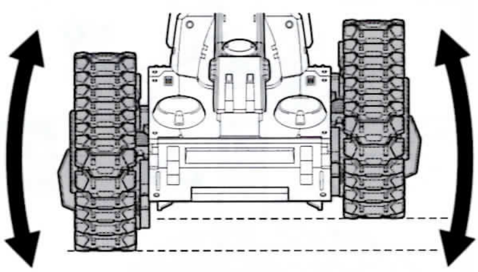
※説明のため、左肩の
キャノンを外しています。

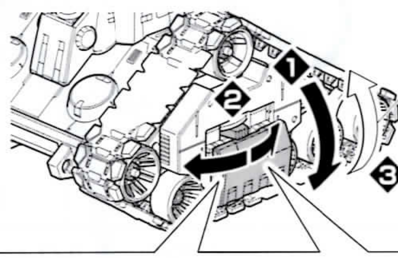
17 〈2〉



17 〈3〉 〈車高調整〉

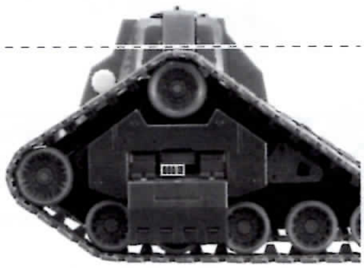




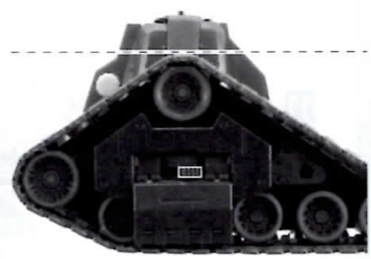


※車高調整レバーに
ロックがかかります。

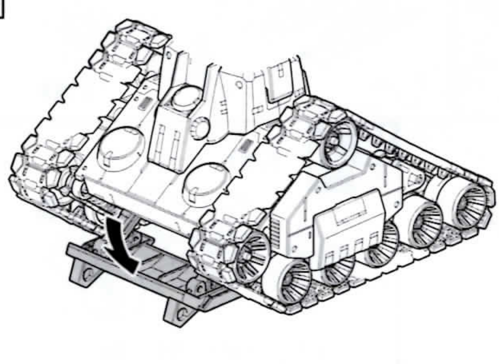
〈車高アップ〉

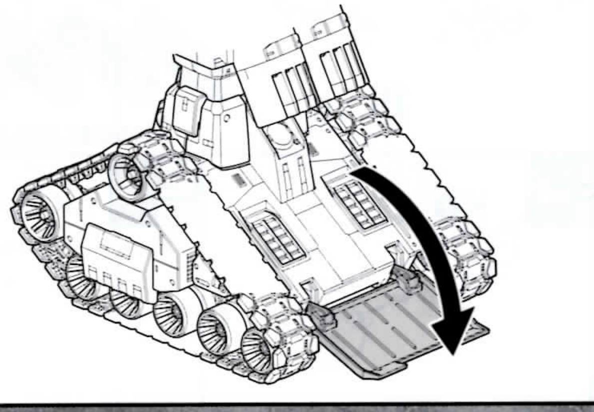


〈車高ダウン〉



17 〈4〉



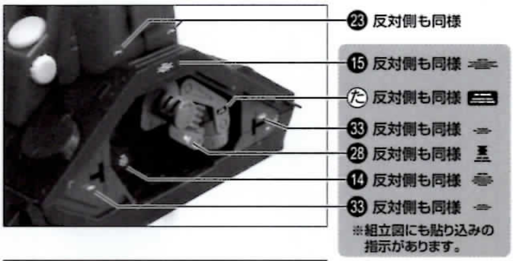


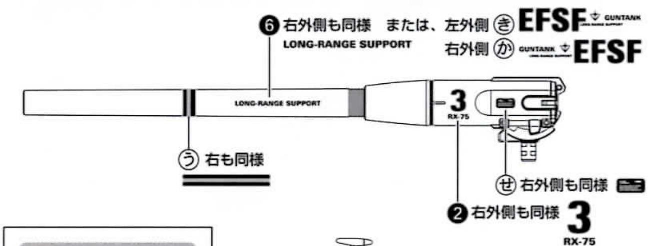
Seal
〈シール〉 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

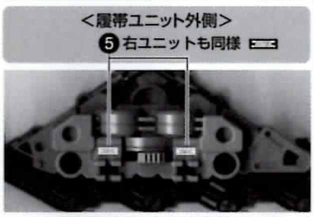
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「数字の白文字」で表記してあります。
【例】 ㋐・・・マーキングシール　❶・・・ガンダムデカール

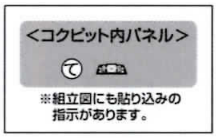
【ガンダムデカールの貼りかた】
1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

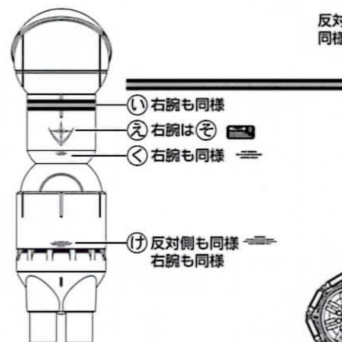
このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。

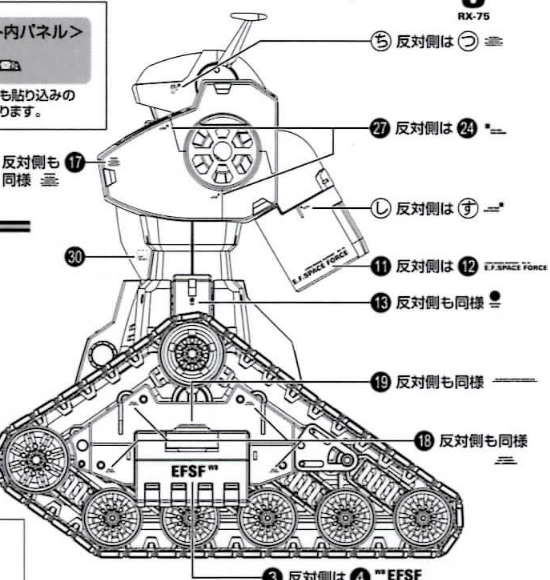


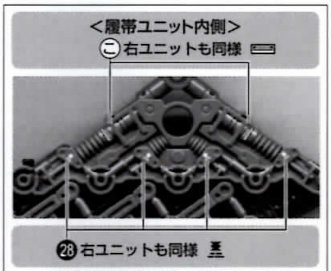


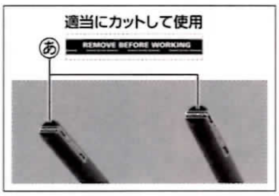


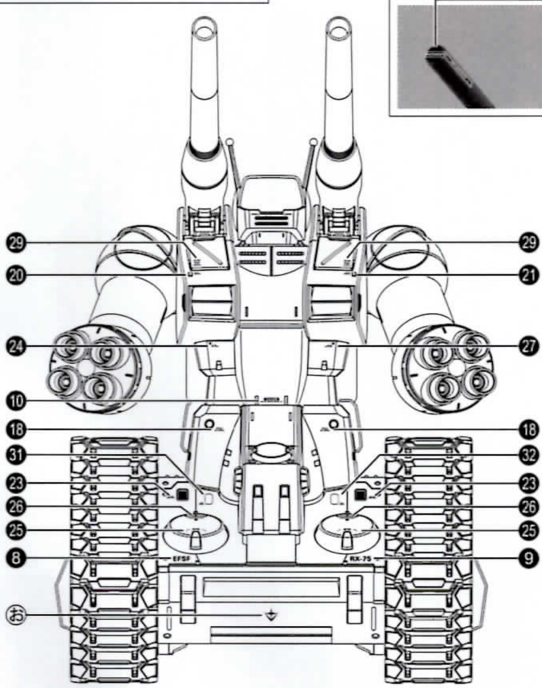


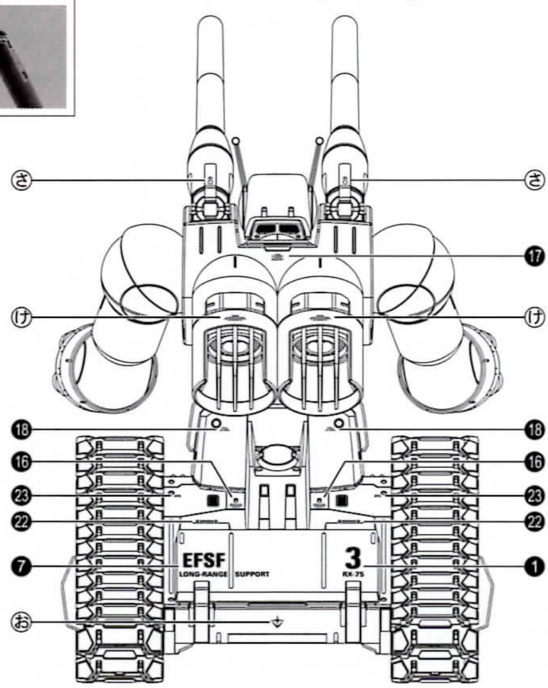












※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



地球連邦軍
長距離支援型モビルスーツ
RX-75 ガンタンク
1/100スケール マスターグレードモデル

RX-75 GUNTANK